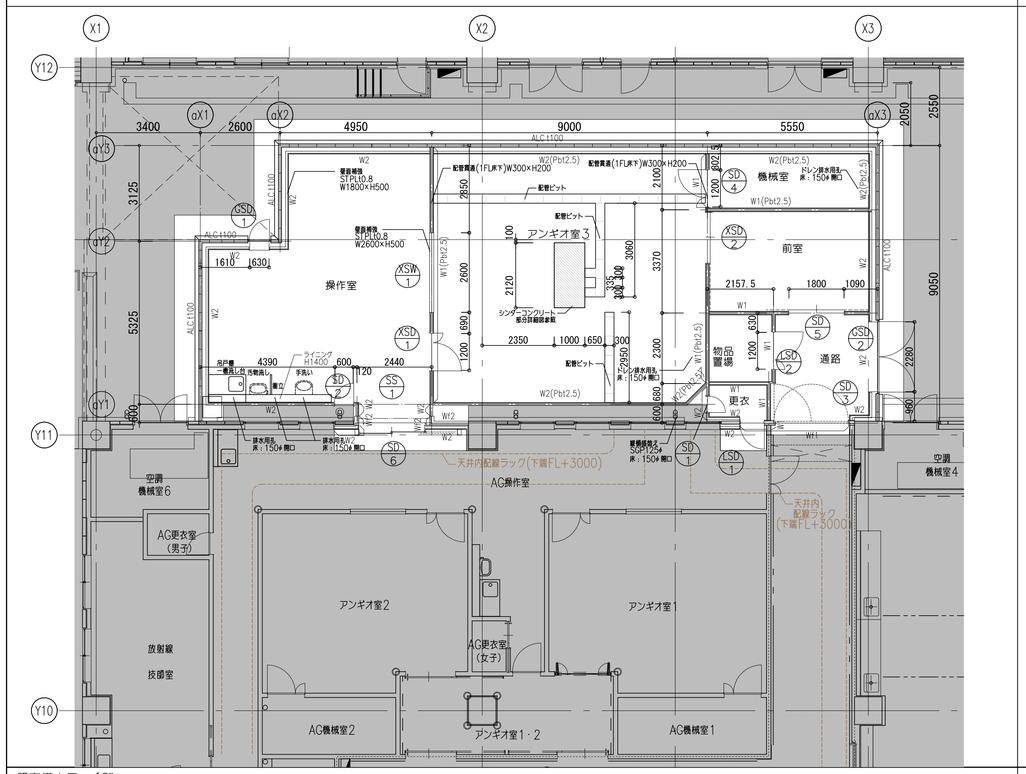
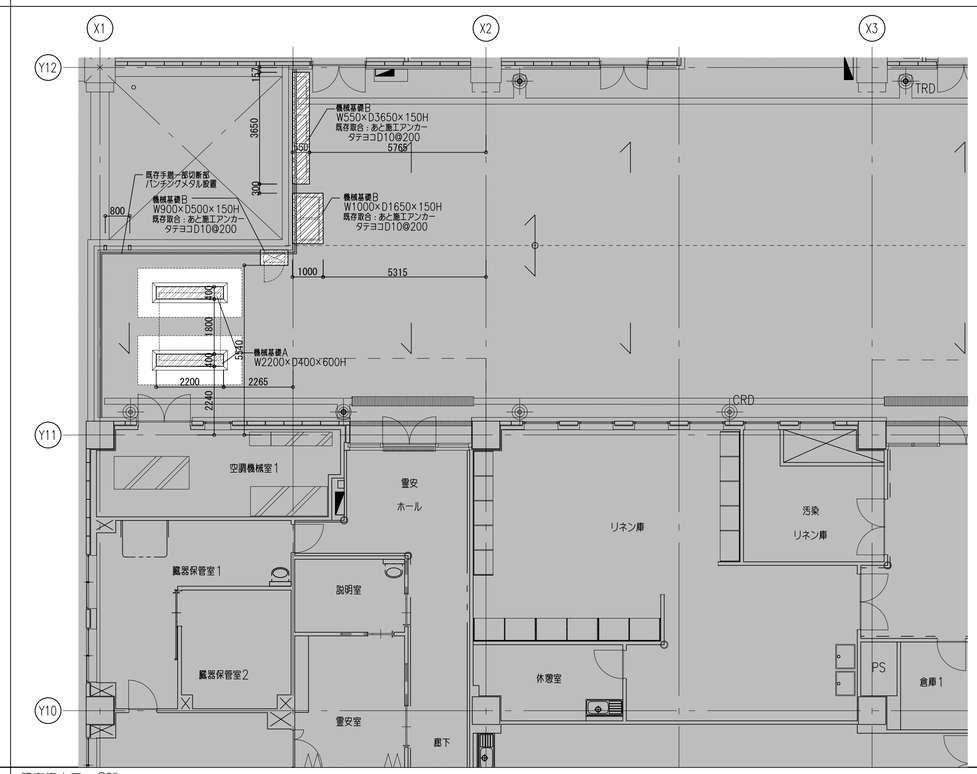
改修平面詳細図 ― 1階



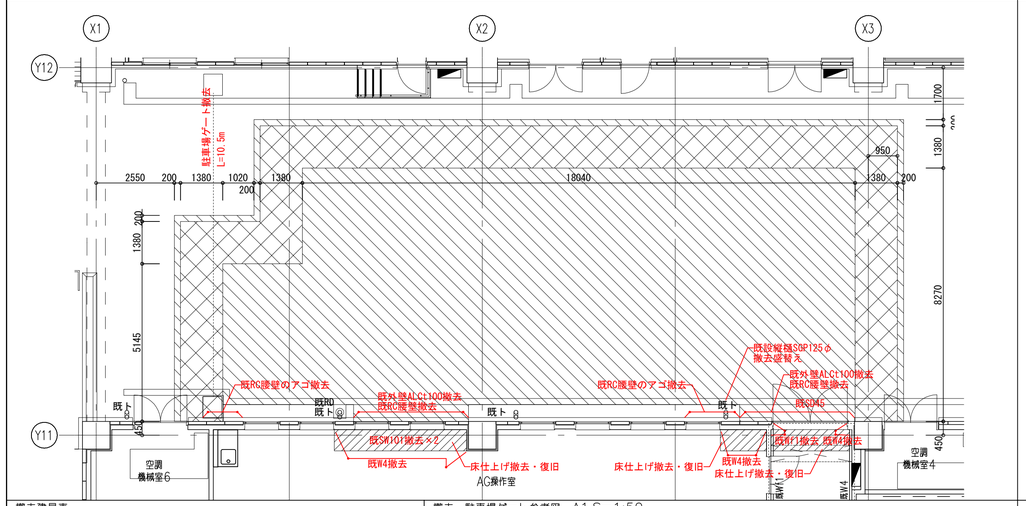
改修平面詳細図 ― 2階



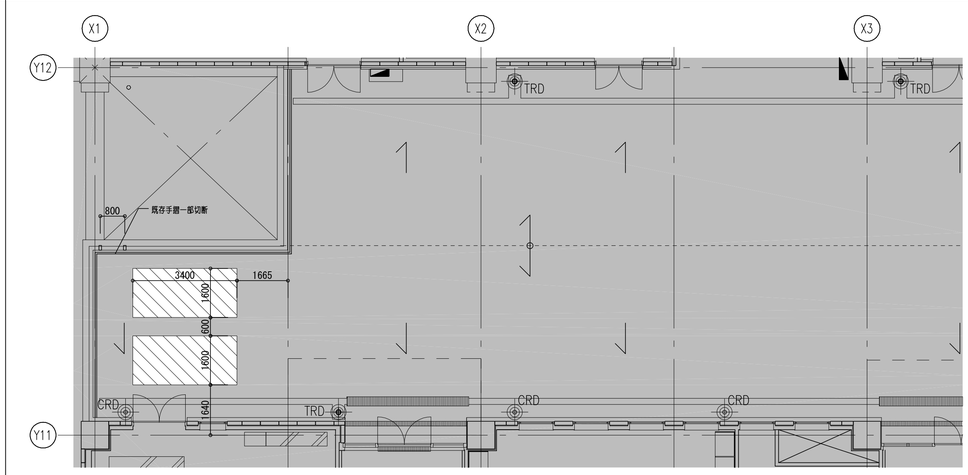
［ 壁種凡例 ］

W1	一般壁（両面）<天井まで>
	LSG(60)下地　GB−Rt12.5+12.5
	GB−Rt12.5+12.5
W2	一般壁（片面）<天井まで>
	LSG(60)下地　GB−Rt12.5+12.5
Wf1	耐火壁（両面）<スラブまで>
	LSG(60)下地　GB−Ft21+21
	GB−Ft12.5+12.5
	耐火認定：FP060NP−0174同等
Wf2	耐火壁（片面）<スラブまで>
	LSG(90)下地　GB−Ft21+21
	耐火認定：FP060NP−0007同等
ALC	外壁　ALC壁 t100（縦貼り）
	複層仕上塗材E
	機械基礎

既存撤去図 ― 1階



既存撤去図 ― 2階



［既存仕上］

操作室	天井	GB−Rt12.5+化粧ケイカルt8.0
		CH2500
	壁	LGS壁の上、化粧ケイカルt8.0
	巾木	LGS壁の上、ビニル巾木　H60
	床	RCの上、長尺塩ビシートt2.0
廊下	天井	GB−Rt12.5+岩綿吸音板t12
		CH2500
	壁	LGS壁の上、EP−G
	巾木	LGS壁の上、ビニル巾木　H60
	床	RCの上、長尺塩ビシートt2.0

［凡例］

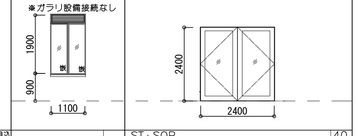
既W4	一般壁（片面）<天井まで>
	LSG(60)下地　GB−Rt12.5+12.5
既Wf1	耐火壁（両面）<スラブまで>
	LSG(90)下地　GB−Ft12.5+12.5
	GB−Ft12.5+12.5
	床：押えコンクリートt80〜アスファルト防水〜トップコンクリートまで撤去（スパンクリートは残置）
	床：押えコンクリートt80まで撤去

※外壁撤去は診療のない土曜日工事とする。

撤去建具表

符号	形式	数量				
	法規		既SW	板　ガ	2	既SD　板　ガ　1
			101	特定防火設備		45　特定防火設備

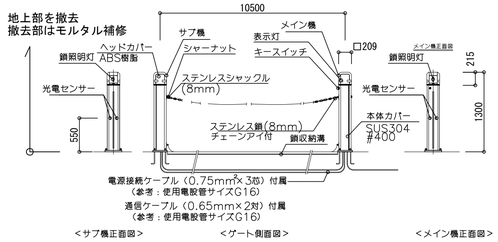
※ガラリ設備接続なし



建具	材質・仕上	見込		ST・SOP　40
枠	材質・仕上	見込	ST・SOP　168	ST・SOP　100
額縁	材質・仕上	見込		
各扉／扉板				SUS・HL　02
硝子			耐熱強化ガラス8	WG−（PSG5+A6+PSG6）
建具金物				PH・LH・DC・FR・ケ・片・電気錠
備考				周囲戸部は飛散防止フィルム貼り

撤去　駐車場ゲート参考図　A1 S=1:50

地上部を撤去
撤去部はモルタル補修

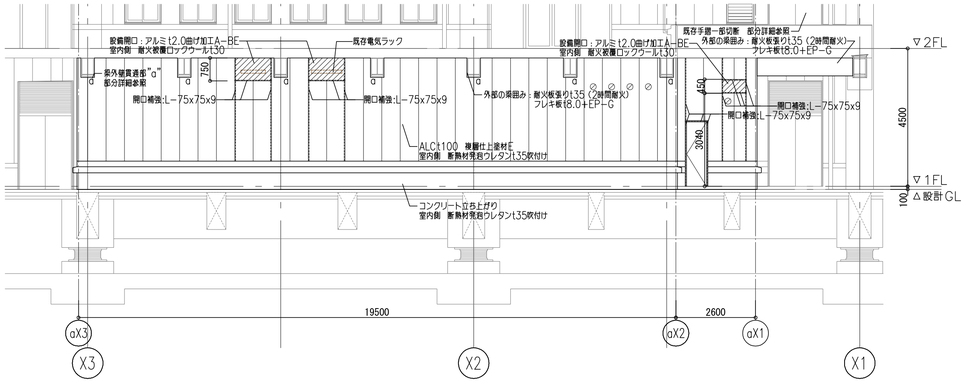


<総括・意匠設計者>
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

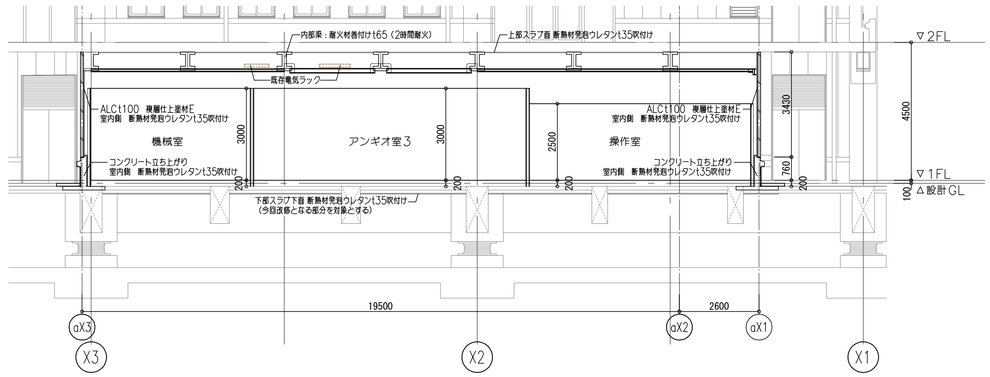
兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

A	建築工事	最終版	2020.9.14
01	平面詳細・撤去平面図　A1:1/100 A3:1/200	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

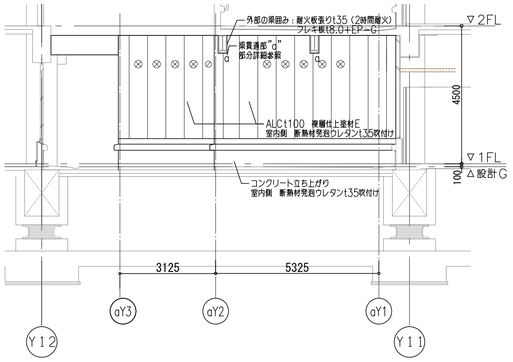
改修立面図・断面図



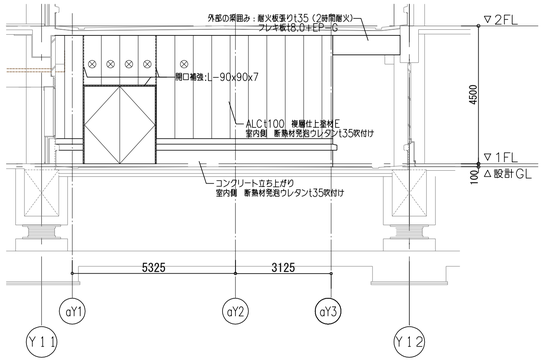
αY3通り　立面図



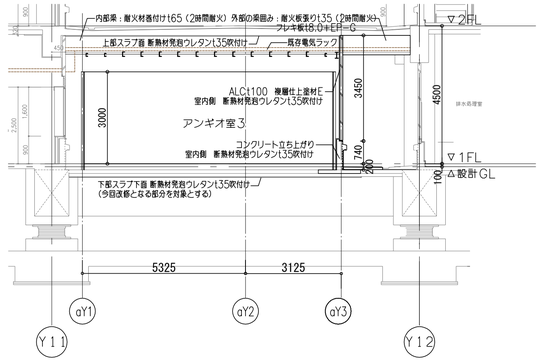
断面図1



αX1通り　立面図



αX3通り　立面図

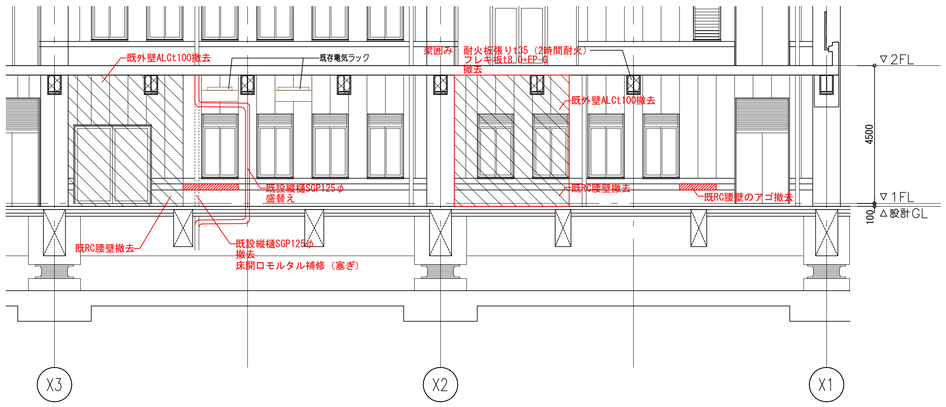


断面図2

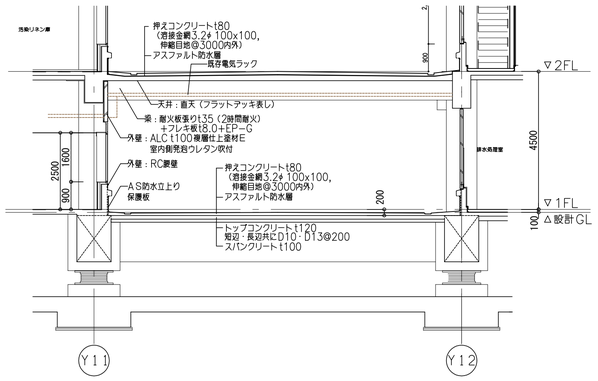
[凡例]

▨	設備開口：アルミt2.0曲げ加工A−BE 室内側　耐火被覆ロックウールt30
⊗	ALC設備開口：250φ
⊘	ALC設備開口：175φ

既存撤去図ー1階



Y11通り　立面図



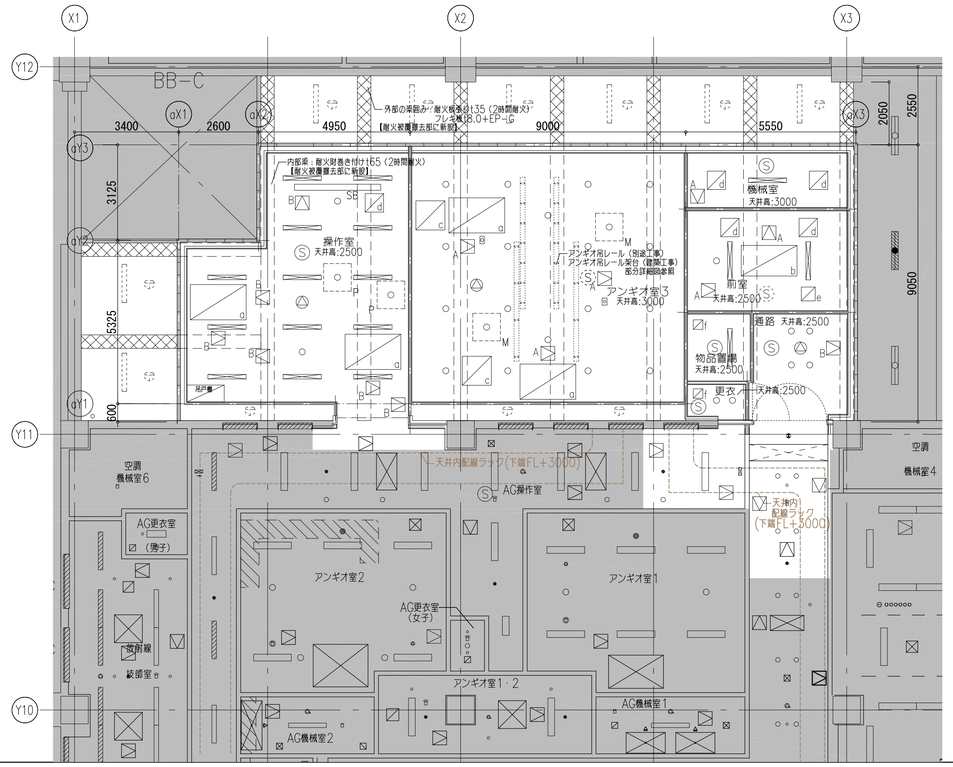
Y方向　断面図

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

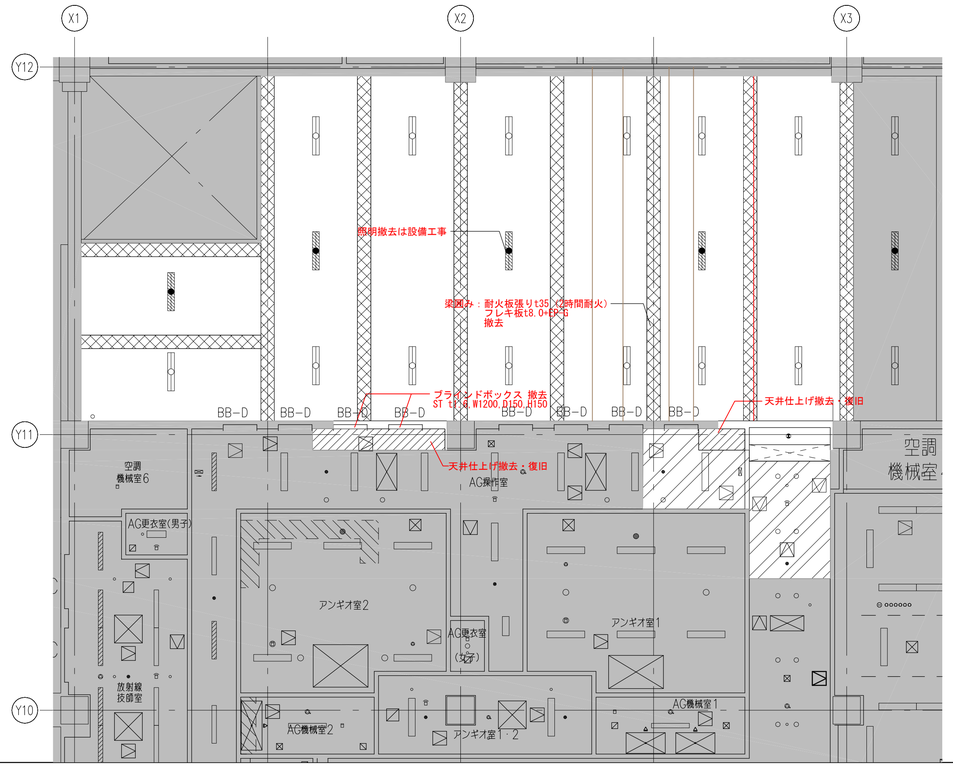
兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

A	建築工事	最終版	2020.9.14
02	立面図・断面図 撤去立面図・断面図　A1:1/100 A3:1/200	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

改修天井伏図



撤去天井伏図



［ 凡例 ］

SB	手動スクリーン（埋込ボックス共） （W×D）2800×200
P	プロジェクター架台
M	無影灯架台
	梁囲み：耐火板張りt35（2時間耐火） +フレキ板t8.0+EP−G 【耐火被覆撤去部に新設】
A B	天井点検口　450□ A：エアタイト仕様 B：一般仕様
	機械設備 ＊開口リスト（W×D） a：1820×1150 b：1820×1000 c：950×950 d：600×600 e：450×450 f：350×350
	電気設備　開口（W×D）1450×150
S	電気設備　開口　100φ
	電気設備　開口　150φ
	電気設備　開口　200φ
S	点線の凡例 電気設備の直付器具

［既存仕上］

操作室	天井	GB−Rt12.5+化粧ケイカルt8.0
		CH2500
	壁	LGS壁の上、化粧ケイカルt8.0
	巾木	LGS壁の上、ビニル巾木　H60
	床	RCの上、長尺塩ビシートt2.0
廊下	天井	GB−Rt12.5+岩綿吸音板t12
		CH2500
	壁	LGS壁の上、EP−G
	巾木	LGS壁の上、ビニル巾木　H60
	床	RCの上、長尺塩ビシートt2.0

［凡例］

	梁囲み：耐火板張りt35（2時間耐火） +フレキ板t8.0+EP−G　撤去
	天井仕上げ撤去・新設
	天井仕上げ撤去・新設（点検口・設備は脱着して復旧） 【土日工事とする】

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

A	建築工事	最終版	2020.9.14
03	天井伏図・撤去天井伏図　A1:1/100　A3:1/200	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

共通事項

1　各項目の※及び ・ の適用は特記仕様書と同じとする。
2　（0－00－0）内の数字は、公共建築協会発行「建築工事標準詳細図　最新版」の詳細番号を示す。
3　特記以外の木部は、EP－G（水系）とする。ただし、和室廻りは塗装無とする。
4　特記以外の鉄部、亜鉛メッキ面は、SOP塗（F☆☆☆☆）とする。
5　備考欄の「測定対象室（　）」は、特記仕様書の「室内空気中の化学物質の濃度測定」を行う対象室を示し、（　）内数値は、測定個所数を示す。
6　記号は下記による。

区　分	略　号	材料名称
下地略号	RC（ ）	（　）は標仕表6.2.4による
	CB	コンクリートブロック積み
	ALC	軽量気泡コンクリートパネル
	ECP	押出成形セメント板
	LGS	軽量鉄骨下地
	W	木（木造下地）
	ST	スチール
	SUS	ステンレス
	AL	アルミニウム
	MO	モルタルコテ押え
	WM	防水モルタルコテ押え
	UF（W）	木製ユニット床組
	UF（S）	鋼製ユニット床組
	OA	フリーアクセスフロア（OAフロア）
	PF	ポリエチレンフォーム床下地（床下地ゆみ）
	LC	シンダーコンクリート
床材略号	TS	単層ビニル床シート（発泡層なし）
	FS	複層ビニル床シート（発泡層なし）
	HS	発泡複層ビニル床シート（発泡層あり）
	KS	クッションフロア（発泡層あり）
	KT	コンポジションビニル床タイル
	TT	単層ビニル床タイル
	FT	複層ビニル床タイル
	FOA	置敷きビニル床タイル
	FOB	薄形置敷きビニル床タイル
	Ca	カーペット
	TCa	タイルカーペット
	＿（電）	耐電性床シート／床タイル／タイルカーペット
	FS（動）	耐動荷重性床シート
	＿（薬）	耐薬品性床シート
幅木略号	VB	ビニル幅木
	WB	木製幅木
ボード類略号	GB－R	せっこうボード
	GB－NC	不燃積層せっこうボード（化粧無し：下地張り用）
	GB－NC（T）	不燃積層せっこうボード（化粧有り：トラバーチン模様）
	GB－D（W）	化粧せっこうボード（木目）
	GB－D（T）	化粧せっこうボード（トラバーチン模様）
	GB－S	シージングせっこうボード
	GB－F	強化せっこうボード
	GB－P	吸音用穴あきせっこうボード
	FK	けい酸カルシウム板（タイプ2）
	FK（P）	吸音用穴あき無石綿セメントけい酸カルシウム板
	DR	ロックウール化粧吸音板（フラットタイプ）
	DR（凹凸）	ロックウール化粧吸音板（凹凸タイプ）
	DR（軒天）	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：フラットタイプ）
	DR（軒天凹凸）	ロックウール化粧吸音板（軒天井用：凹凸タイプ）
	PF板	押出法ポリスチレンフォーム保温板
	RW－B	ロックウール吸音ボード（ガラスクロス包）
	GW－B	グラスウール吸音ボード（ガラスクロス包）（32kg/m³）
	HW	硬質木毛セメント板
	NW	普通木毛セメント板
	HF	硬質木片セメント板
	NF	普通木片セメント板
	GB－L	せっこうラスボード
	MDF	ミディアムデンシティファイバーボード
	HB	ハードボード
	IB	インシュレーションボード
仕上略号（塗装）	SOP	合成樹脂調合ペイント塗り
	CL	クリヤーラッカー塗り
	NAD	アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り
	DP（※）	耐候性塗料塗り（※：A、B、C、1、2、3）
	EP－G	つや有合成樹脂エマルションペイント塗り
	EP	合成樹脂エマルションペイント塗り
	EP－T	合成樹脂エマルションペイント模様塗料塗り
	LE	ラッカーエナメル塗り
	UC	ウレタン樹脂ワニス塗り
	OS	オイルステイン塗り
	WP	木材保護塗料塗り
	AE	アクリル樹脂エナメル塗り
	EP－M	多彩模様塗料塗り
	VE	塩化ビニル樹脂エナメル塗り
	AIP	アルミニウムペイント塗り
	2－XE	構造用さび止めペイント
仕上略号（鋼材）	HL	ヘアライン仕上
	SSE	エッチング仕上
	SSV	バイブレーション仕上
	SSM	鏡面仕上（＃800以上）
	SSB	ショットブラスト仕上
	BC	硫化イブシ仕上
	A－BE	アクリル樹脂焼付
	F－BE	フッ素樹脂焼付
	U－BE	ウレタン樹脂焼付
	M－BE	メラミン樹脂焼付
	NS	粘着剤付シート貼り

天井見切縁 カーテンブラインドボックス略号	V	塩ビ製（既製品）
	AL	アルミニウム製（A－BE、指定色）
	ST	スチール、t=1.6mmSOP
	W	木製（OSCL）
	PR	ピクチャーレール（既製品：　　）
		耐荷重：
防水略号（防水）	A	アスファルト防水
	S	合成樹脂シート防水
	P	合成樹脂塗膜防水

外部仕上げ

	種　別	施工箇所
床	・コンクリート直均し仕上げ（1－01－3）	
	・ユニットタイル（1－01－5）	
	・磁器質タイル（1－01－6）	
	・天然石（ひき石）（1－01－9）	
	・	
壁、柱、梁	※RC（B）増打厚さ20mm（2－02－7～11） ※出隅面取り：（20）mm　出隅角面取：（20×20mm）のうえ ・複層塗材（　）　・外装薄塗材（　）　・AE塗り　・塗装なし ・ ・磁器質タイル密着張り（2－01－4） ・磁器質タイルマスク張り（2－01－7） ・	
腰	※壁、柱、梁に同じとする。 ・	
屋　根	※下地RCのうえ ・アスファルト防水（A－2）、ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm、 保護コンクリート厚さ80mm直均し仕上げ、伸縮調整目地 ※アスファルト防水（AI－2）、PF板厚さ（※25mm・　　）mm フラットヤーンクロス（70g/m²程度） 保護コンクリート厚さ80mm（溶接金網入り）直均し仕上げ、伸縮調整目地 ・アスファルト防水（D－2）	
軒　天	・	
庇	施工箇所	
	上　端	
	は　な	
	下　端	

外部詳細			
・屋上パラペット	・コンクリート笠木：断熱防水（5－01－3）　・図示 ・コンクリート笠木（5－02－3） ・アルミニウム笠木：断熱防水（5－01－7） ・アルミニウム笠木（5－02－7）		
・塔屋取合い	・コンクリート笠木（5－01－4） ・アルミニウム笠木（5－01－6）		
・屋上点検口	（5－21－1：ステンレス製ふた）	共通：防水立上り部 ・（　）	
・屋上換気塔	（5－21－2）　・図示		
・屋上管類貫通部	（5－22－1）　・図示	・塔屋取合と同じ	
・屋上基礎	・コンクリート笠木（5－22－2）・アルミ笠木（5－22－3）		
・煙突	※成型パイプ（7－21－1）径＝（　）mm 天板（※無　・有（　））　耐酸耐熱塗料なし		
・雨とい及び ルーフドレン	※鋼管とい（5－32－1）径＝（　）mm　・横型　・たて型		
・タラップ	・標準型（8－31－1）　・はしご型（8－31－2）　・安全ガード型（8－31－3）		
・懸垂幕受け金物	・回転型（8－32－1）　・固定型（8－32－2）		
・屋上手すり	※（5－23－1）　・図示		
・看板、サイン	（　）		
・くつふきマット	・排水なし（8－21－1）　※排水つき（8－21－2） ・泥だまり、排水つき（8－21－3）		
・くつ洗い流し	・一槽型（8－22－1）　・二槽型（8－22－2）		

内部仕上げ

床

（1）特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	詳細番号
ビニル床シート	（1－01－4：t＝10）RC
磁器質タイル	（1－01－5または6）
カーペット・タイルカーペット	（1－02－4または5）RC直張りの場合
たたみ	（1－02－3）
天然木化粧複合フローリング	（1－02－8）
RC、床用塗料、防塵用塗料	（1－01－3：t＝10）RC
モルタル、防水モルタル	（1－01－1）防水モルタル厚（※15・30）
フリーアクセスフロア	（1－02－14）

（2）表記なきレベルは、FL±0とする。
（3）屋内のRC機械基礎は、床と同等の仕上を行う。
（4）テッキプレートを用いたスラブに防水を行う場合は、テッキプレートに穴明（6φ @300×600）を行う。
（5）浮床などのグラスウールは96kg/m³とする。
（6）異なる床仕上げの取合いで、畝摺りが無い場合はステンレスFB見切t＝6mmを設置する。
（7）塗膜防水の上、仕上材による仕上げの指示がある場合は、保護コンクリートt＝50の上、仕上げとする。
（8）屋内防水指示のある室の周囲壁面はRCを立ち上げ防水層を巻き上げる。
（9）床の防振
・厨房の下部に居室がある場合は、厨房の床防水の上に
（・RC浮床構造　・　防振束二重床（軽量衝撃音レベル等級LL50相当品）
※設計図による　・　　）を設ける。範囲は設計図による。
・食堂の床などで下部に居室がある場合は、軽量床衝撃音対策として、
（・　防振束二重床（軽量衝撃音レベル等級LL50相当品）　※設計図による　・　　）を設ける。
範囲は設計図による。
・歩行など衝撃を伴う屋上の下部に、会議室・役員室など重要な部屋がある場合は屋上防水の上に
（・　RC浮床構造　・　設計図による　・　　）を設ける。範囲は設計図による。

幅　木

（1）特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	高さ（mm）	詳細番号
VB	※60　・75	（2－11－1）（2－11－9）
WB（樹種　※杉　・　　）	※60　・	（2－11－4）：CL仕上げ
ビニル床シート巻上げ	※60　・	（2－11－2）

（2）幅木防塵塗装で、壁下地がLGSの場合、コンクリートを幅木高さまで立ち上げる。

柱　壁

（1）特記以外の下地及び詳細番号は下記による。

仕上げ種別	詳細番号
ボード張り（RCまたはCB下地）	（GL工法：接着材＝11～13mm）（2－03－6）（1枚張り）
ボード張り（軽量鉄骨壁下地：一般壁）	（2－22－1）（2－24－5～7：継目処理の場合）
ボード張り（軽量鉄骨壁下地：遮音壁）	（2－23－1）（2－24－5～7：継目処理の場合）
陶器質タイル（RC又はCB下地）	（2－01－2）
モルタル	（2－02－12）
吸音材張り（RCまたはCB下地）	（2－02－13）
地下二重壁	（2－41－1）

（2）特記以外のボード類は下記による。

種　別	厚さ（mm）	備　　考
GB－R	12.5	塗装仕上げ及び、壁紙張りの場合は継目処理（2－03－6）（2－03－10） ただし、仕上げ等行わない場合は突き付け（2－03－9）（2－03－13）とする。 （二重張りは特記無き限り下張りは上張りと同厚のボードとする）
FK	8	突付け（V目地）（2－03－17：下地張りはGB－S） （2－03－12：下地張りは　・GB－S　・FK　）

（3）コンクリート打放しの出隅面取りは10mmとする。（梁型とも）
（4）下り壁（3－12－1：※塩ビ製見切縁・アルミ製見切縁）の仕上げは壁と同じとする。
（5）ボード壁とRC又はCB壁との取合いは（2－24－4,－7：継目処理の場合　塩ビ製見切縁）とする。
（6）ボード壁とサッシ取合いは（2－24－8）とする。
（7）押入（6－46－1）の壁はGB－R厚さ12.5mm塗装なし突き付けとする。
（8）陶器質タイルを、軽量鉄骨壁下地のボード面に接着張りを行う場合のボードは、下地張りをGB－S、上張りをFK（突付け）とする。（2－03－13）
（9）防水を行う室内のRC壁は、20mm増打とする。
（10）常時開放式防火戸の戸袋内側は、特記なき限り塗装仕上とする。（4－47－1）（4－48－1）
（11）外壁面に誘発目地を設ける場合は、内壁面にも同箇所に設け、内外共シールを行う。
（12）アルミカーテンウォールのスパンドレル部にFKを裏打する場合は、EP仕上とする。
（13）塗装下地用クロスの塗料は、専用塗料で防火一級認定品とする。
（14）特記なき限り壁に取付いた柱型は、壁仕上に従う。
（15）階段及び避難経路に使用する押出成型セメント板・ALC版等、乾式下地のボード貼は、LGS工法（ロッキング対応）とする。
（16）単板練付は、0.3mm以上とし、特記なき限りUC仕上げとする。
（17）耐火、遮音壁以外のボード類は、天井仕上面より100mm上まで貼る。
（18）化粧FKを使用する場合の目地処理は（・目地シーリング　・アルミジョイナー工法　・　　）とする。

天　井

（1）軽量鉄骨天井下地は（3－21－1）（3－21－2）（3－21－3）（3－41）（3－42）とする。
（2）特記以外のボード類は下記による。

種　別	厚さ（mm）	詳細番号
DR	※9　・12	（3－01－4）
DR（凹凸）	※12　・15	（3－01－4）
FK	・6　・（　）	（3－01－2）
GB－NC	9.5	（3－01－2）
GB－D	12.5	下地は製造所の仕様とする
RW又はGW張り	25	（3－01－12）

（3）押入（6－46－1）の天井はGB－R厚さ12.5mm塗装なし突き付けとする。
（4）壁～天井の取合いは天井付き目地
（3－11－3、4、7、8：※塩ビ製見切縁　・アルミ製見切縁）とする。
（5）DRの下張りは　※GB－R厚さ12.5mm　・GB－NC厚さ9.5mm　とする。
（6）GB－NC（T）の大きさ　※910×455mm　・910×910mm
（7）塗装仕上げ及び壁紙張りの場合はGB－R厚さ12.5mm（継目処理）とする。
（・3－01－7、・3－01－8）
（8）外部のDR（軒天）の下地張りはGB－S厚さ12.5mmとする。
（9）特記なき限り天井より突出した梁型は天井仕上に、壁に取付いた梁型は壁仕上に従う。
（10）照明ボックス部は、熱抜穴φ20防虫網付@600を設ける。
（11）厨房等の天井でFK2枚貼の目地部はシーリングを施すものとする。

内部詳細

・断熱材	種　別　※PF板打ち込み　・現場発泡断熱材 窓まわりなどの補修材は現場発泡断熱材とする。 施工範囲　外壁　※内面がGB－R張り（GL工法）の床面から梁型下端まで （階段は除く）の部分（7－01－2） ・図示 スラブ　・土層接地スラブ下面および図示の範囲（7－01－2） （ただし、屋根スラブ下面を除く） ・図示
・雨といおよび 排除口	※鋼管とい（5－32－1および2） ・
・カーテンボックス 及びブランドボックス	※アルミニウム製（3－31－3）　・木製（3－32－1）　・図示 特記なき限り　W＝120　H＝80
・階段手すり	・ビニル製（7－12－5～7：通しのFBは38×9.0とする） ※集成材（7－12－2～4,8）　・図示
・落下防止手すり	・（　　）　・図示
・トラフ	・ビニル床タイル（1－21－4）　・しま鋼板SOP（1－21－3）
・トイレフース	※既製品　へだての補強が必要な場合は製造所の仕様による
・肢体不自由者用 便所手すり	固定手摺（A）（6－23－1）（6－25－1） 可動手摺　（既製品：取り付けは6－28－5に準ずる）
・便所防水	※塗膜防水（1－31－2）
・流し台および コンロ台	（6－11）
・流し上部水切り	・奥行き55mm（6－11－3）　・奥行き（　　mm）（6－11－4）
・つり戸だな	（6－11－5）
・フード	（6－11－2）
・和室出入口	※（6－42）　・（6－41－　）　・（　　）
・押入	（6－46－1　※天袋なし　・天袋あり）
・浴室	（6－31－1　※防水あり　・防水なし）
・脱衣箱	（6－32－1）
・くつふきマット	・排水なし（8－21－1）　※排水つき（8－21－2） ・泥だまり、排水つき（8－21－3）
・タラップ	※標準型（8－31－1）
・郵便受け	※既製品　（　　程度）
・表示標識	・（　　）　・各階案内板　・室名札 ・ピクトグラフ　・階段表示板 既製品　・誘導標識
・屋内掲示板	既製品（アルミ枠）

遮音性能

外部からの遮音
・外部からの音に対する室内遮音レベルは、（※45　・　）dBA以下を目標とする。
・重要室（　　）の室内騒音レベルは、（※40　・　）dBA以下を目標とする。
・工事着手後、騒音源が見渡せる位置で外部騒音の測定を行い、外装の検討に反映させる。
・完成時の騒音測定は窓から1m離れた位置とし、建物の高さに応じて（　　）フロアを測定する。
室内間仕切りの遮音
・テナント間間仕切りの遮音性能はRr－（※50　・　）以上とする。また、サッシ取り合い部、柱取り合い部、窓廻り上下階区画部の遮音性能確保に注意する。
・（　　）間間仕切りの遮音性能は、独立スタッド型のRr－（※50　・　）以上とする。
・居室と便所、居室とEVシャフト間の間仕切りの遮音性能は、独立スタッド型のRr－（※55）以上とする。
・遮音上重要な壁には原則としてコンセントボックス、ペーパーホルダーなどによる切込みをつくらない。やむを得ず設ける場合にはスチール捨てボックス（アンダックスコート吹付け）を先付けしてその中に設置すること。また遮音壁との間の隙間はシール材にて塞ぐこと。
・鉄骨造耐火被覆材に取り付く乾式遮音間仕切壁については、梁下に先付けチャンネル材を通しで取付け、遮音壁を取り付ける。耐火被覆材は湿式材またはこれに代わる充填性のよい被覆材とする。
※外部に設置する設備機器類の給排気騒音値は、隣接境界線上で騒音規制法に定める規定値以下とする。

防火材料（国土交通大臣認定品）

石膏ボード（t＝12.5，15.0）	不燃	NM－8619（社団法人 石膏ボード工業会）
石膏ボード（t＝9.5）	不燃	NM－0441（同等品）
化粧石膏ボード（t＝9.5）［不燃積層板］	不燃	NM－1864（同等品）
化粧石膏ボード（t＝12.5）	不燃	NM－0128（同等品）
強化石膏ボード（t＝12.5，15.0，21.0）	不燃	NM－8615（社団法人 石膏ボード工業会）
ロックウール吸音板（岩綿吸音板）	不燃	NM－8599
吹付岩綿	不燃	NM－8601
グラスウール保温板	不燃	NM－8605（硝子繊維協会）
繊維混入けい酸カルシウム板	不燃	NM－8578（同等品）
天然木練付化粧けい酸カルシウム板	不燃	NM－8040（同等品）
塗料	不燃	NM－8585（社団法人 日本塗料工業会）
塗料	準不燃	QM－9816（社団法人 日本塗料工業会）
塗料	難燃	RM－9364（社団法人 日本塗料工業会）
防火壁装材料	不燃	NM－9889（同等品）
防火壁装材料	準不燃	QM－9502（同等品）
防火壁装材料	難燃	RM－9216（同等品）
石膏ボード（t＝9.5）	準不燃	QM－9828（社団法人 石膏ボード工業会）
化粧石膏吸音ボード	準不燃	QM－9822（社団法人 石膏ボード工業会）
化粧石膏ボード（t＝9.5）	準不燃	QM－0524（同等品）
シージング石膏ボード（t＝12.5）	準不燃	QM－9826（社団法人 石膏ボード工業会）
普通木片セメント板	準不燃	QM－9705（社団法人 全国木質セメント板工業組合）
硬質木片セメント板	準不燃	QM－9706（社団法人 全国木質セメント板工業組合）
木毛セメント板	準不燃	QM－9701（社団法人 全国木質セメント板工業組合）

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

仕上表NO.1

階	室名	床 防水	床 下地	床 材質・仕上	床 FL/SL	巾木 特記アキ限り(H=60)	壁 下地	壁 材質・仕上	天井 下地	天井 材質・仕上	H	付属品 天井見切縁	付属品 ボックス・ハンド	備考
1階	アンギオ室3		鋼製	FS（動）	±0	床材巻上	LGS	FKt6.0+NAD	LGS	FKt6.0+NAD	3000			床：除湿器ドレン開口150φ、配管ピット、
			LC		−200	H300		（目地：シーリング）		（目地：シーリング）				無影灯架台、アンギオ吊架台、シールド（Pbt2.5）
	機械室		OA	FOA	±0	VB	LGS	FKt6.0+EP−G	LGS	FKt6.0+EP−G	3000			床：除湿器ドレン開口150φ
					−200			（目地：シーリング）		（目地：シーリング）				
	前室		鋼製	FS（動）	±0	VB	LGS	FKt6.0+EP−G	LGS	FKt6.0+EP−G	2500			
					−200			（目地：シーリング）		（目地：シーリング）				
	操作室		OA	FOA	±0	VB	LGS	ビニルクロス(A)	LGS	DR	2600	V		SUS流し、吊戸棚、ライニング、衝立、
					−200									手動スクリーン（ボックス含）、プロジェクター架台（天井）
														床：排水用開口150φ×3
	物品置場		鋼製	FS	±0	VB	LGS	EP−G	LGS	DR	2500	V		
					−200									
	更衣		鋼製	FS	±0	VB	LGS	EP−G	LGS	DR	2500	V		
					−200									
	通路		鋼製	FS	±0	VB	LGS	EP−G	LGS	DR	2500	V		
					−200									
	収納		RC	FS(A)	±0	VB	LGS	ビニルクロス(A)	LGS	GB−NC(T)	3000	AL		

■特記事項

※特記なき限り、壁下地（LGS壁）は平面詳細図の壁種による。
　壁種のボードの上に上記の仕上げとする。

※床を除く内装は特記なき限り、仕上、下地、全て不燃とする。

※壁紙、接着剤、仕上、下地、天井裏すべてF☆☆☆☆以上とすること

※設備機器、什器等の取付部には必要な下地補強（STPLt1.0）を行うこと

※鋼製床の仕上げ下地は、構造用合板t15×2枚とする

※建具のあるPS,DSの床面は防塵塗料塗とする。

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

A	建築工事	最終版	2020.9.14
05	仕上表	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

建具表（共通事項）

■ 特記事項

A.アルミニウム製建具
1．建具の室内側枠は、アルミ若しくはスチール額縁クリップ止めとする。木額縁の場合は埋木にてビス止め部分を隠すこと。又は、アングルピース差し込みとする。
2．外部に面する建具の室外側下枠は、サッシ同材同仕上による水切り（2次排水）を設ける。
3．排水孔は最小8ｍｍ、原則として2個以上設ける。また風圧による逆流を防止のためバッフルを設ける。
4．寒冷地の排水は水結による落下防止のために、室内側排水経路（設備ドレン管等）に接続するか十分な滞留部分を確保すること。
5．PC版に接する外部建具は2次シールガスケット方式とする。
6．外壁金属パネルは裏面に結露防止、雨音防止としてグライト t＝5.0吹付とする。耐火性能が必要な場合は、ロックウール吹付（耐火30分対応）とする。
7．アルミ材が異種金属材料やアルカリ性材料と接する場合は、接触腐食を防止する措置を適切に施すこと。
8．形式が引違、上げ下げ窓で、複層ガラスを使用する場合、枠見込は100ｍｍする。

B.鋼製建具
1．防錆処理は、特記なき限り、内外部とも鉄鋼面はJISＫ5674（鉛・クロムフリーさび止めペイント）、亜鉛めっき鋼面はJPMS 28（一液形変性エポキシ樹脂さび止めペイント）を使用する。
2．外部に面する扉はロックウール（150ｋｇ/m³品）充填とする。
3．PS，DSの点検口はＡＴ仕様とする。
4．機械室・発電機室等の通常遮音を要する室の建具は、扉厚40mm以上（GW1.5KN/m³充填）遮音性能30−35dB（500Hz）、締付金物グレモン錠3点締、三方枠、沓摺、クロロプレンゴム入扉エッジSUS304 t＝1.5付きとする。
5．雨掛かり部分の扉外部上枠には、水切板（SUS304　厚1.5）を設ける。
6．外部建具、厨房、便所等水の掛かる扉および建具枠は下部300ｍｍをステンレス（SUS304　厚1.5）塗装仕上げとする。
7．手動引分戸（鋼製軽量建具）は閉鎖連動機構とする。
8．扉厚さは下表を参考とする。

扉大きさ	扉厚さ（mm）
3.0m²以上	45
5.0m²以上	50
5.0m²超	60

C.ステンレス製建具
1．HL・SSE・SSB・SSV仕上の場合は、合成樹脂塗料透明塗り（ツヤ消し・50μ以上）とする。

D.シャッター
1．外部シャッターには、はずれ止め装置を付けること。特に風当たりの強い箇所については強度計算を行い耐力を確かめること。
2．シャッターレール下部（床部分）は、ステンレスt＝2.0以上にて塞ぐ。
3．シャッター付防火戸のオートヒンジ調整孔は見え掛りを避け、フサギ板を設ける。
4．シャッターと自動ドアが近接する場合は、各々のスイッチを同一のボックスに収納すること。

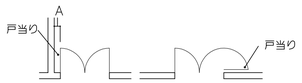
E.建具金物
1．建具金物の材質、仕上げ、機構は特記なき限り下表による。但し、見本品を提出の上、監理者の承諾を受けること。

種　類	材質、仕上、機構	備　考
丁番	ステンレス製ヘアライン仕上	
ピボットヒンジ	SS41鍛造又は亜鉛ダイキャスト 見え掛かり部分はステンレスカバー	
フロアヒンジ	フェースプレートは浅型隠ベイ型 内外共90度ストップ付 ディレイトアクション ラッチングアクション バックチェック閉扉速度調整装置付	
オートヒンジ	焼付塗装（指定色）	
ドアクローザー	ディレイトアクション ラッチングアクション バックチェック閉扉速度調整装置付 アルミダイキャスト 焼付塗装（扉同色指定色）	
コンシールド型 ドアクローザー	スプリング油圧式、2段変速調整装置付 90度ストップ付（戸当り併用）	
錠前	シリンダー錠、バックセット75ｍｍ以上、 マスターキー装置付	
握り玉	ステンレス製ヘアライン仕上 バックセット100ｍｍ、丸座100φ	
レバーハンドル	座板共ステンレス製ヘアライン仕上	
クレモンハンドル	ステンレス製ヘアライン仕上	
彫込式フランス落し	ステンレス製ヘアライン仕上	
戸当り	外部ステンレス製ヘアライン仕上ゴム付 内部ダルクローム床埋込型	

2．握り玉、レバーハンドル、押板類の取付位置は、（※FL＋1,000mm　・　）を標準とする。
3．窓専用建具には下記付属金物一式及びクレセントを含むものとする。色はサッシと同色とする。あおり止め、ストッパーは完全隠ぺい型とする。

形　式	種　類
片　開　き	丁番・締り・取手・あおり止め
両開き・親子開き	丁番・締り・取手・あおり止め・フランス落し
引違い・片引き	戸車・レール・締り
竪軸回転	ピボットヒンジ・締り・取手・あおり止め
横軸回転	ピボットヒンジ・締り・取手・アームストッパー
すべり出し	ピボットヒンジ・締り・取手・すべり出しアーム
突出し・内倒し・外倒し	丁番類・締り・取手・アームストッパー

4．外部に面する戸はドアクローザーおよびあおり止めを設ける。
5．ドアクローザーは室内側設置を原則とする。
6．ドアクローザーは原則としてストッパー付とするが、防火戸の場合はストッパーなしとする。
7．親子及び両開き扉のドアクローザーは原則として1ヶ所とするが、防火戸の場合は2ヶ所とし順位調整器付とする。
8．親子及び両開き扉は、フランス落し付、上下1ヶ所とする。
9．壁当りとなる扉にはドアクローザーの有無に関わらず、全て戸当りを設ける。



10．上図のAは原則として150以上とする。

F.鍵
1．鍵はリバーシブルシリンダー、ティンブルキーとする。
2．シリンダー錠はアンチフリクション機構付とする。
3．鍵は必要により設備関係の鍵類も合わせて鍵整理保管箱に収容する。

G.ガラリ
1．原則として扉につくガラリは扉と同材同仕上とする。
2．外部に面するガラリには、ダクト接続有無に関わらずステンレス製防鳥網（SUS1.5φ 12×12）を設置する。
3．外部に面してダクトが接続されるガラリは接続枠付、水返し（ステンレス製（厚1.0以上）フラッシング）付とし、ダクトは板ゴムを会して取り付ける。また枠裏面（室内側）に結露防止材を施す。
4．外部ガラリは原則として2重ガラリ以上とする。

H.自然排煙窓
1．自然排煙窓のハンドル、オペレーター、クレセントの取付け高さはFL＋1,500ｍｍ以下とする。
2．排煙オペレーターは、ワンタッチ式もしくは煙感知器連動とし、オペレーターボックス、ケーブルは埋込、ダンパーは完全隠ベイ式とする。
3．特記なき限り排煙オペレーターボックスは既製品とし、ボックス扉は特記仕様書による。

I.その他
1．トロ詰めモルタルは防水剤入り、無塩砂モルタルを使用する。
2．かまち戸ガラス面には衝突防止金物　SUS製鏡面仕上30φ @300を両面に取付けること。

J.性能機能 JIS A4706（サッシ）及びJIS　A4702（ドアセット）

1．耐風圧性　　単位：Pa

等級	S−1	S−2	S−3	S−4	S−5	S−6	S−7
最大加圧圧力	800	1200	1600	2000	2400	2800	3600

2．気密性

等級	A−1	A−2	A−3	A−4
気密等級線	120等級線	30等級線	8等級線	2等級線

3．水密性　　単位：Pa

等級	W−1	W−2	W−3	W−4	W−5
圧力差	100	150	250	350	500

4．遮音性

等級	T−1	T−2	T−3	T−4
遮音性等級線	25等級線	30等級線	35等級線	40等級線

5．断熱性　　単位：m²・k/w

等級	H−1	H−2	H−3	H−4	H−5
熱貫流抵抗値	0.215	0.246	0.287	0.344	0.430

6．面内変形追随性　　単位：rad

等級	D−1	D−2	D−3
開放可能な面内変形角	$\frac{1}{300}$	$\frac{1}{150}$	$\frac{1}{120}$

7．層間変位
建具表において、○印は下記性能を確保する。（H：階高）
1/300Hで各部異常なし。
1/150Hで破損脱落なし、防火性能確保。

■ 建具種別

SD	鋼製扉（内部）	GSD	鋼製扉（外部）
LSD	軽量鋼製扉	XSD	特殊鋼製扉
SSD	ステンレス製扉	XSW	特殊鋼製窓
AD	アルミ製扉		
WD	木製扉		
SDW	鋼製複合扉		
SSDW	ステンレス製複合扉		
ADW	アルミ製複合扉		
SW	鋼製窓		
SSW	ステンレス製窓		
AW	アルミ製窓		
WW	木製窓		
SG	鋼製ガラリ		
SSG	ステンレス製ガラリ		
AG	アルミ製ガラリ		
WG	木製ガラリ		
SS	鋼製重量シャッター		
LSS	鋼製軽量シャッター		
RSS	グリルシャッター		
SSS	ステンレス製重量シャッター		
JD	和風建具（障子・襖）		
SF	三方枠（鋼製）		
SSF	三方枠（ステンレス製）		
SP	可動間仕切（パーティション）		

■ 仕上記号

B−1	無着色陽極酸化塗装（屋外）
B−2	着色陽極酸化塗装（屋外）
C−1	無着色陽極酸化塗装（屋内）
C−2	着色陽極酸化塗装（屋内）
SOP	合成樹脂調合ペイント
FE	フタル酸樹脂エナメル
EP	合成樹脂エマルジョンペイント
CL	クリヤラッカー塗り
HL	ヘアライン仕上
SSE	エッチング仕上
SSV	バイブレーション仕上
SSM	鏡面仕上（＃800以上）
SSB	ショットブラスト仕上
BC	硫化イブシ仕上
A−BE	アクリル樹脂焼付
F−BE	フッソ樹脂焼付
U−BE	ウレタン樹脂焼付
M−BE	メラミン樹脂焼付
NS	粘着剤付シート貼り

■ 形式記号

引	引違窓
片	片引窓・片開戸
嵌	嵌殺し窓
回	回転窓
開	開き窓
辷	辷り出し窓
内	内倒窓
外	外倒窓
上	上げ下げ窓
突	突出窓
親	親子扉
両	両開戸
片引	片引戸
引分	引分戸
引違	引違戸
枠	三方枠
く	くぐり戸付
ラ	ランマ付
袖	袖付
框	框戸
フ	両面フラッシュ

■ 材質記号

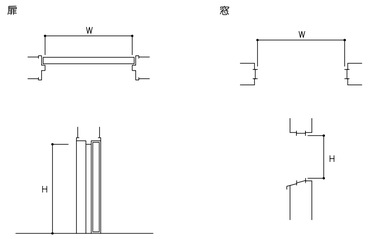
ST	鋼（スチール）
AL	アルミニウム
SUS	ステンレス
W	木

■ 性能記号

建具表において、○印は下記性能を確保する。

AT	気密性サッシ・ドアセット	
		（気密性　※A−4　・A−　　）
		（水密性　※W−5　・W−　　）
SAT	簡易気密性ドアセット	（気密性　※A−3　・A−　　）
		（水密性　※W−1　・W−　　）
PAT	防音型ドアセット	（気密性　※A−4以上、扉内ロックウール（150kg/m³）充填、多点締りクレモン錠）
防音	防音型サッシ	（遮音性　・T−　　）
断熱	断熱型サッシ・ドアセット	
		（断熱性　・T−　　気密性　・A−　　）
耐震	耐震ドアセット	（面内変形追随性　・D−　　）

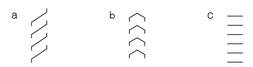
■ 内法寸法規定



■ ガラス種別記号

PSG	フロート板ガラス
FG	型板ガラス
PWG	網入磨板ガラス
FWG	網入型板ガラス
PAG	合わせガラス
TG	強化ガラス
HS	低強度ガラス
HG	熱線吸収ガラス
HWG	熱線吸収網入ガラス
MG	熱線反射ガラス
HMG	高性能熱線反射ガラス
WG	複層ガラス（空気層厚）
PGT	ガラスティッシュ入合わせガラス
GB	ガラスブロック
BHG	防犯ガラス
耐熱	耐熱ガラス
耐熱TG	耐熱強化ガラス
低反	低反射ガラス
Le	Low−e＋A空気層＋PSG
Le網	Low−e＋A空気層＋PWG

■ ドアガラリ形状記号

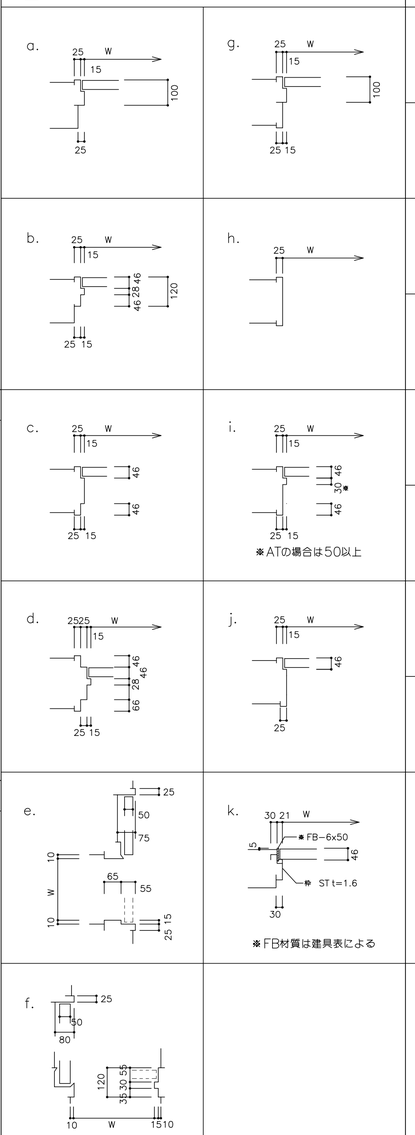


（開口率35%）　（開口率35%）

■ 防火性能記号

特	特定防火設備
防	防火設備（法2条9号の2）
不	不燃戸

■ 枠形状記号 ＜寸法は参考とする＞



■ 建具金物［支持金物］記号

FH	フロアヒンジ
AH	オートヒンジ
PH	ピボットヒンジ
H	丁番
DH	自由丁番
HR	ハンガーレール
吊	中心吊りヒンジ

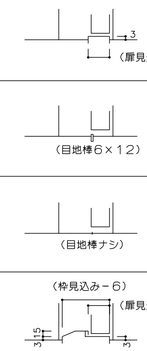
■ 建具金物［操作金物］記号

KN	握り玉
LH	レバーハンドル
HP	押棒・押板・引手
CH	ケースハンドル
FP	彫込引手
OP	オペレーター
GH	クレモンハンドル
CR	クレセント
PP	プッシュプル開閉金物

■ 建具金物［開閉金物］記号

DC	ドアクローザー
DC（F）	ドアクローザー（ヒューズ付）
DC（C）	コンシールド型ドアクローザー
FR	フランス落し
AS	アームストッパー
DS	戸当り

■ 沓摺形状記号 ＜寸法は参考とする＞



枠見込寸法記号

D1	100mm以下
D2	101〜200
D3	201〜300
D4	301〜400
D5	401mm以上

特記なき限り、SUS（304）　t=2　HLとする

■ 建具金物［施錠金物］記号

本	本締錠
ケ	ケースロック
モ	モノロック
鍵	シリンダー鍵錠
非	非常錠
電	電気錠
ク	クレモン錠
ホ	ホテルロック
分	分電盤錠

■ 室名表示記号

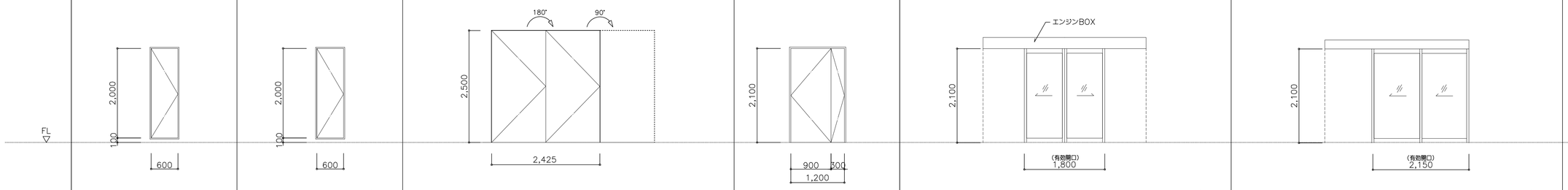
切	切抜貼
プ	プロセス印刷

■ 建具金物［施錠機構］記号

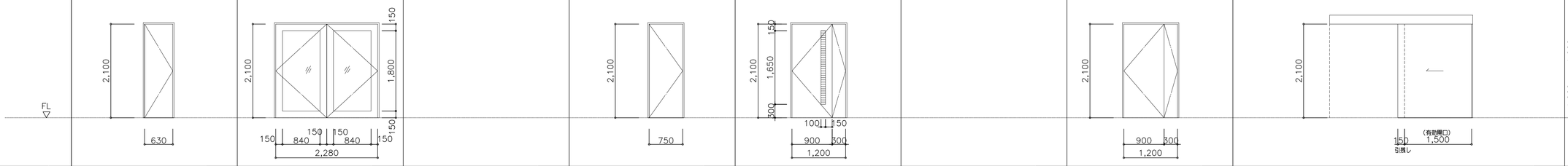
両	両面シリンダー
片	片面シリンダー　片面サムターン
ソ	空錠
片ソ	片面シリンダー　片面空錠
非	非常カバー付
表	表示付きサムターン（非常時外部からの開閉機構付）
外	外付開錠装置付（消防用）

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

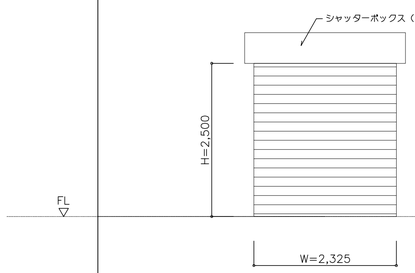
符号	SD 1	SD 2	SD 3	SD 4	SD 5	SD 6	
形式	片 片フ	片 片フ	折 フ	親 フ	両引・框（自動ドア）	片引（2枚引・自動ドア）	
数量	1	1	1	1	1	1	
室名			特定防火設備				
建具 材質・仕上・厚	ST・SOP	ST・SOP	ST・SOP t1.6	ST・SOP	ST・SOP	ST・SOP	
見込	40	40	50	40			
枠 材質・仕上・形状	ST・SOP・α（四方枠）	ST・SOP・α（四方枠）	ST・SOP・＊	ST・SOP・b	ST・SOP	ST・SOP	
見込	D1	D1		D2			
額縁 材質・仕上							
見込							
畳摺／廻板・形状				SUS・HL・02	SUS・HL・ガイドレール	SUS・HL・ガイドレール	
ガラス					TG t10（飛散防止フィルム貼）	TG t10（飛散防止フィルム貼）	
建具金物	吊・分・附属金物一式	吊・分・附属金物一式	AH（中心吊）・FP	PH・LH・DC・ケ・片・FR・附属金物一式	FP・HR・本・片・付属金物一式	FP・HR・本・片・付属金物一式	
備考			特定防火設備、常開、煙感知器連動閉鎖	特定防火設備	袖部：LGS壁、エンジンドア（フットスイッチ）、パニックオープン、火災報知機連動開放	袖部：LGS壁、エンジンドア（フットスイッチ）、パニックオープン、火災報知機連動開放	



符号	GSD 1	GSD 2		LSD 1	LSD 2		XSD 1	XSD 2	XSW 1
形式	片 フ	框 両		片 フ	親 フ		親（自動ドア）	片引（自動ドア）	板
数量	1	1		1	1		1	1	1
室名									
建具 材質・仕上・厚	ST・DP	ST・DP		ST・SOP	ST・SOP		ST・SOP	ST・SOP	
見込	40	40		40	40		40	40	
枠 材質・仕上・形状	ST・DP・i	ST・DP・i		ST・SOP・b	ST・SOP・b		ST・SOP・b	ST・SOP	ST・SOP
見込	D4	D4		D2	D2		D2	D2	D2
額縁 材質・仕上									ST・SOP
見込									
畳摺／廻板・形状	SUS・HL・07	SUS・HL・07		SUS・HL・01	SUS・HL・02		SUS・HL・02	SUS・HL・ガイドレール	
ガラス		WG（Low−Et8+At6+PSGt10）							鉛ガラス t11（Pb t2.5）
建具金物	H・LH・DC・ケ・両・附属金物一式	H・LH・DC・ケ・片・附属金物一式		PH・LH・DC・ケ・片・附属金物一式	PH・LH・DC・ケ・片・FR・附属金物一式		PH・LH・DC・ケ・片・FR・附属金物一式	FP・HR・本・片・付属金物一式	
備考	PAT仕様	PAT仕様、飛散防止フィルム		特定防火設備	ドアガラリ：ST SOP 形状 b		建具・枠共 Pbt2.5	建具・枠共 Pbt2.5、エンジンドア（フットスイッチ）、パニックオープン、火災報知機連動開放	ガラス・枠共 Pbt2.5



符号	SS 1
形式	電動スチールシャッター
数量	1
室名	
建具 材質・仕上・厚	STt1.6・SOP
見込	
枠 材質・仕上・形状	SUS・HL（ガイドレール・マグサ・座板）
見込	
額縁 材質・仕上	
見込	
畳摺／廻板・形状	
ガラス	
建具金物	附属金物一式、ガイドレール・マグサ・座板：SUS・HL
備考	特定防火設備、火災報知機連動閉鎖、電動開閉装置、 シャッターケース：STt1.6 錆止め塗装

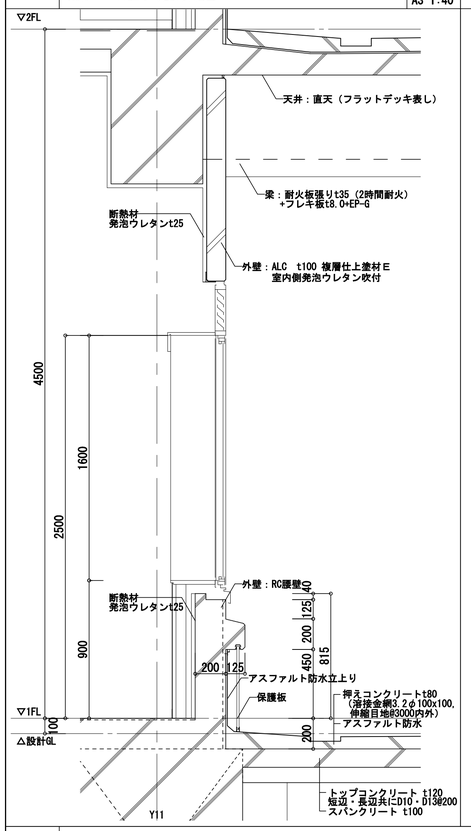


<総括・意匠設計者>
一級建築士 国土交通大臣登録 第293589号
中原 岳夫

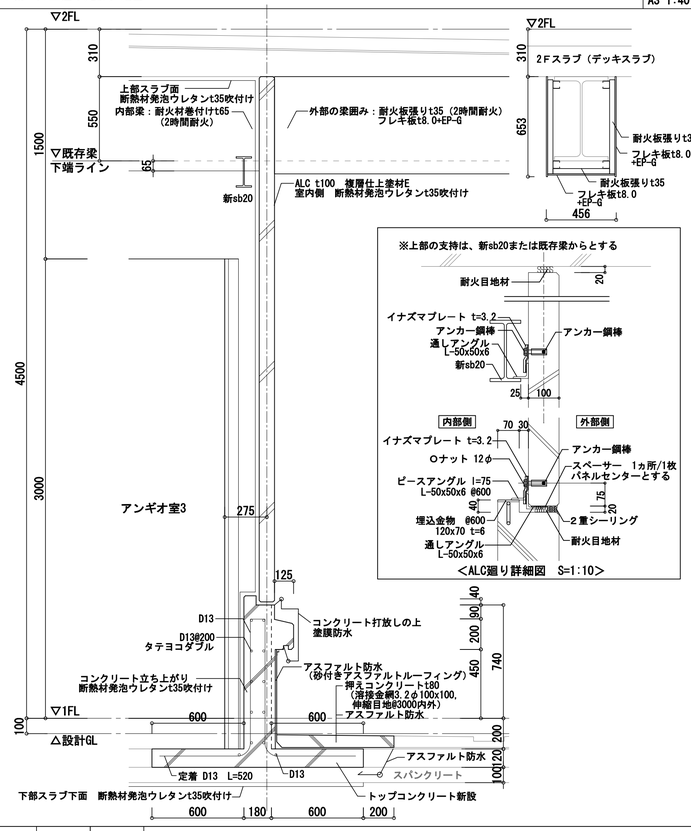
兵庫県立淡路医療センター アンギオ室整備工事

A	建築工事	最終版	2020.9.14
07	建具表 A1: 1/50 A3:1/100	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

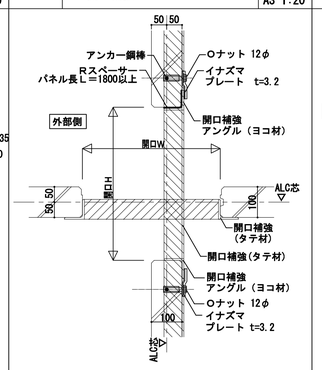
既存　Y11通り 矩計詳細図
A1 1:20
A3 1:40



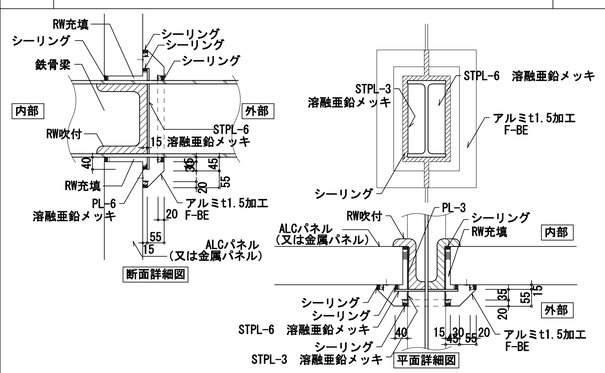
新設　外壁廻り矩計詳細図
A1 1:20
A3 1:40



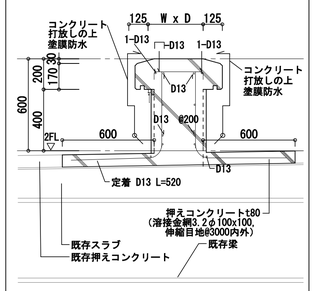
ALC開口補強
A1 1:10
A3 1:20



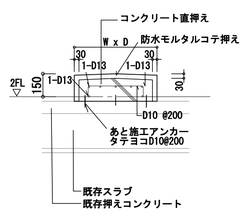
外壁パネル梁貫通部
1:10



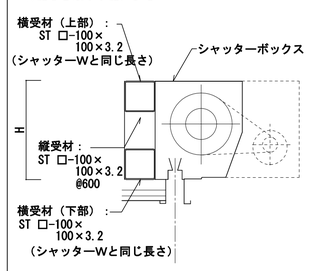
機械基礎A
A1 1:20
A3 1:40



機械基礎B
A1 1:20
A3 1:40

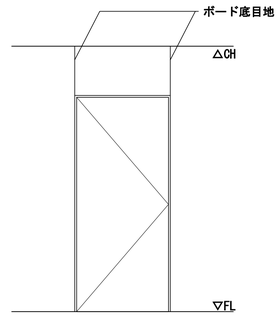


シャッター受材
A1 1:10
A3 1:20

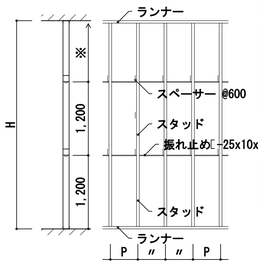


シャッター両端部に縦受材：ST □-100×100×3.2
（FLからシャッターケース上部まで）を見込むこと
BPL-12×150×300
Abolt 2-M16 L480

建具上部目地



新設　外壁廻り矩計詳細図

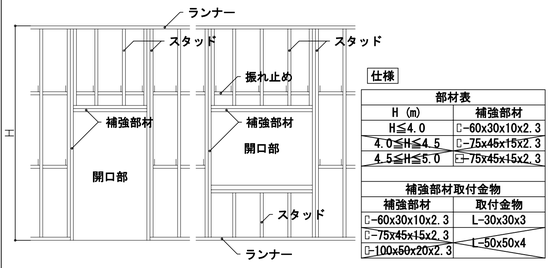


仕様

部　材　表			
H(m)	種類	スタッド ⊔	ランナー ⊔
H≦4.0	65形	65x45x0.8	67x40x0.8
4.0<H≦4.5	90形	90x45x0.8	92x40x0.8
4.5<H≦5.0	100形	100x45x0.8	102x40x0.8

スタッドの間隔 P(mm)	
片面ボード２枚張	450
片面ボード１枚張	300

新設　外壁廻り矩計詳細図

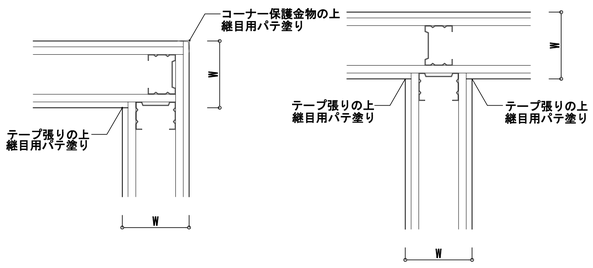


仕様

部材表	
H (m)	補強部材
H≦4.0	□-60x30x10x2.3
4.0≦H≦4.5	□-75x45x15x2.3
4.5≦H≦5.0	⊟-75x45x15x2.3

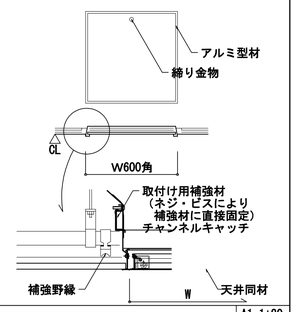
補強部材取付金物	
補強部材	取付金物
□-60x30x10x2.3	L-30x30x3
□-75x45x15x2.3	L-50x50x4
□-100x50x20x2.3	

LGS壁 入隅・出隅詳細図

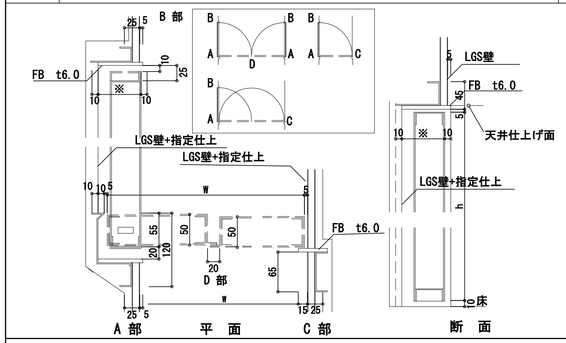


縦目処理の場合

天井点検口（一般）
A1 1:20
A3 1:40



隠し扉枠形状（防火戸）
A1 1:5
A3 1:10

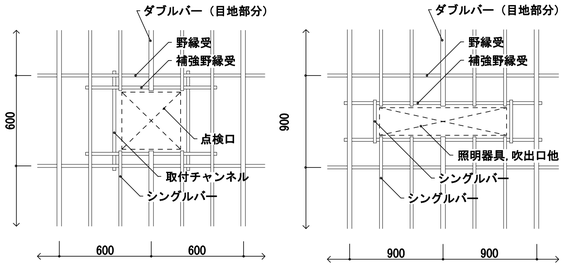


軽量鉄骨天井下地仕様

	吊りボルト 12 φ	野縁（バー）受 溶融亜鉛めっき鋼板 1.6以上	ダブルバー（W） 溶融亜鉛めっき鋼板 0.7以上	シングルバー（S）またはダブルバー 溶融亜鉛めっき鋼板 0.7以上	仕　上　材
捨張り用	@900 以下	@ 900 以下	1方向のみ @1,800	@ 300	耐湿岩綿吸音板、岩綿吸音板

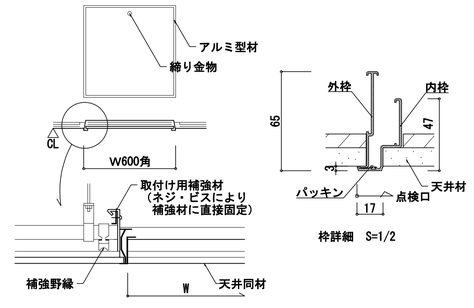
注
1．ピッチ寸法は全て以内とする。
2．ダクト等で吊ボルト@900以上とする場合は、ダクト下に吊りボルト受けの補強材を入れ、野縁の補強を行うこと。
3．天井を構成する天井材は相互に緊結すること。またハンガーについてはねじ留めを行う。野縁受け同士の接合はねじ留めとする。
4．吊り金具等は吊り元を緊結すること。また斜め部材の接合部及び斜め部材周囲の部材を緊結すること。（溶接は不可）
5．斜め部材は、水平面に対して60度以下の角度とする。金属製天井材の締結には、ステンレス製タップビス（@200以内）を使用すること。
6．異種金属と接する部分には、ジンクロメートさび止めペイントを塗布すること。ボルト、ナット類は電気亜鉛メッキB種とする。
7．亜鉛鉄板は溶融亜鉛メッキ鋼板B種とする。

天井　取付開口補強
A1 1:20
A3 1:40



天井点検口取付開口補強　　設備取付開口補強

天井点検口（エアタイト）
A1 1:20
A3 1:40



枠詳細　S=1/2

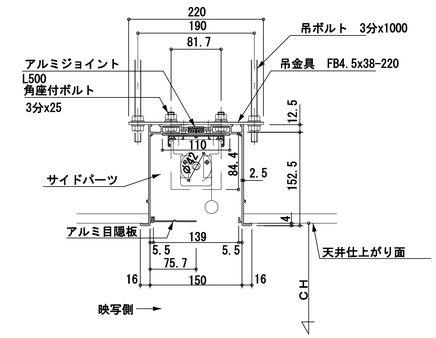
＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事

A	建築工事	最終版	2020.9.14
08	部分詳細図（1） A1: 1/20 A3: 1/40	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

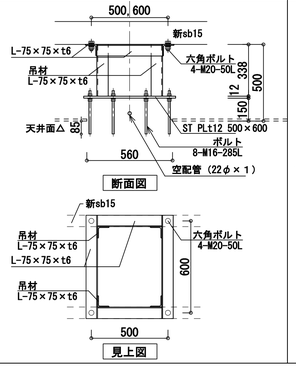
スクリーンボックス

A1 1:5
A3 1:10



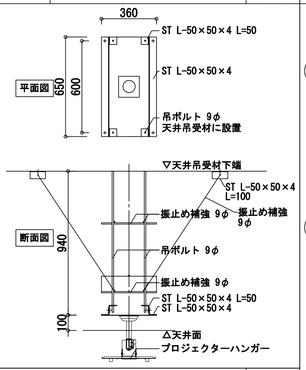
無影灯吊架台

A1 1:20
A3 1:40



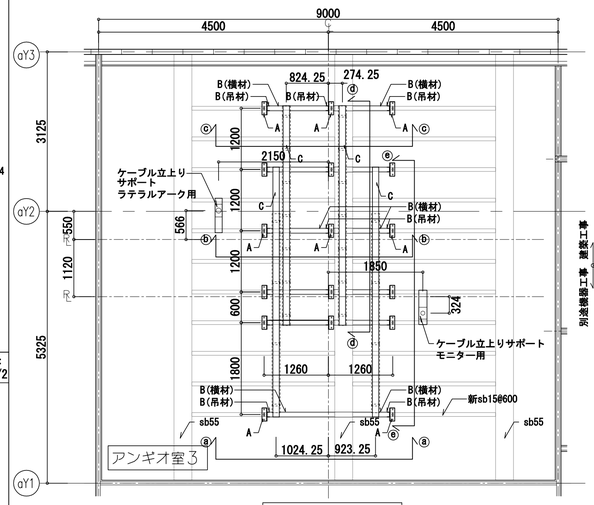
プロジェクター吊金物・ハンガー

A1 1:20
A3 1:40

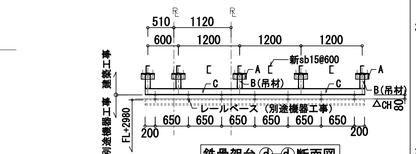


アンギオ吊架台

A1 1:60
A3 1:120

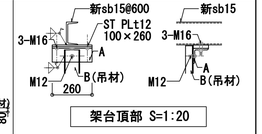


天井内 見上図

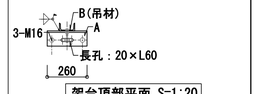


鉄骨架台,ⓓ—ⓓ断面図

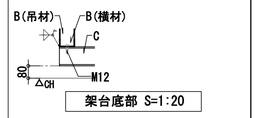
鉄骨架台,ⓔ—ⓔ断面図



架台頂部 S=1:20



架台頂部平面 S=1:20

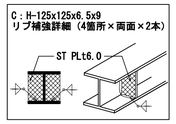


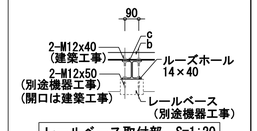
架台底部 S=1:20

AとBの接続はM12ボルトにて結合し
レベル調整後、溶接にて固定すること。

凡例

A	L-100×100×10
B	C—100x50x5
C	H-125x125x6.5x9

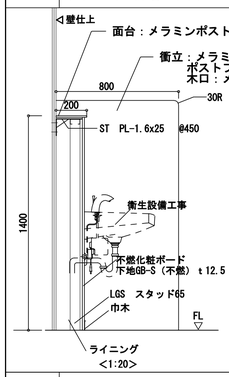




レールベース取付部 S=1:20

ライニング（配管パック）

A1 1:20
A3 1:40



<1:20>

吊戸棚

A1 図示
A3 図示/2

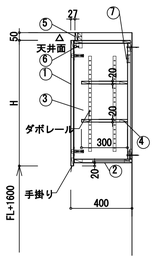
○特記事項
長さの基本寸法
・W寸法は、1200mmとする。

内部仕切板
・W方向600で、割付すること。

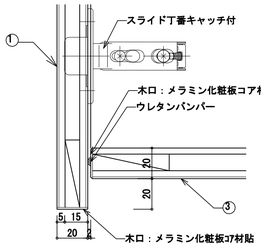
その他
・扉、抽斗の割付は巾450を基準とし、300～600内外で割付けること。
・天井取合い部分は支輪（幕板）を取付けること。
・天井、壁等に必要な下地補強を見込むこと

吊戸棚 仕様

部位	仕上	備考
① 扉	メラミン化粧合板フラッシュ t 20 スライドT番キャッチ付	木口：メラミンコア材 ウレタンダンパー設置
② 本体（外部）	メラミン化粧合板フラッシュ t 20	木口：メラミンコア材
③ 本体（内部仕切板共）	ポリエステル化粧合板フラッシュ t 20 ピス止め樹脂製キャップ付	木口：メラミンコア材
④ 内部可動棚	ポリエステル化粧合板フラッシュ t 20 ダボレール	木口：テープ貼
⑤ 幕板	メラミン化粧合板フラッシュ t 20	
⑥ 耐震ラッチ		
⑦ プラスチック空気孔	(LAMP APD-170型同等)	



<断面図 S=1:20>



<手掛り部分詳細図 1:2>

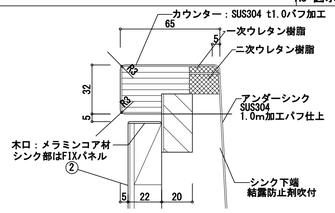
SUS流し詳細図

A1 図示
A3 図示/2

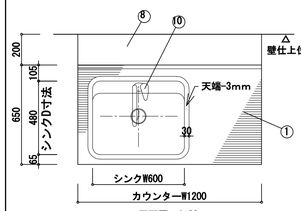
○特記事項
・扉、抽斗の割付は巾450を基準とし、300～600内外で割付ける。
・天井、壁等に必要な下地補強を見込むこと

ステンレス流し台 仕様

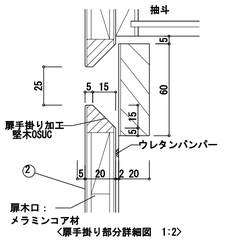
部位	仕上	備考
① 天板（シンク共）	SUS304 1.0m/m加工バフ仕上	シンク裏防露塗装
② 扉	メラミン化粧合板フラッシュ t 20	木口：メラミンコア材
③ 本体（外部）	メラミン化粧合板フラッシュ t 20	木口：メラミンコア材
④ 本体（内部仕切板共）	ポリエステル化粧合板フラッシュ t 20	木口：メラミンコア材
⑤ 内部可動棚	ポリエステル化粧合板フラッシュ t 20	木口：テープ貼
⑥ 巾木	メラミン化粧板貼	
⑦ 抽斗	ポリエステル化粧合板フラッシュ t 20	木口：メラミンコア材
⑧ ライニング天板	メラミン化粧板貼ポストフォーム加工	
⑨ 排水トラップ		
⑩ 水栓		設備工事



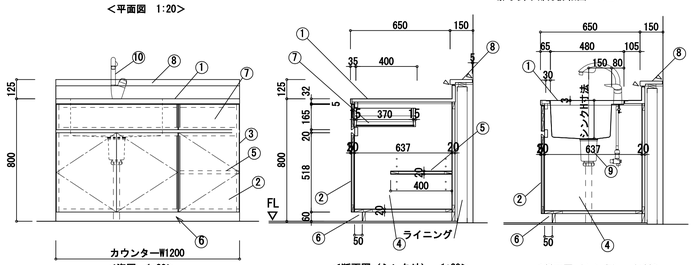
<カウンター木口部分詳細図 1:2>



<平面図 1:20>



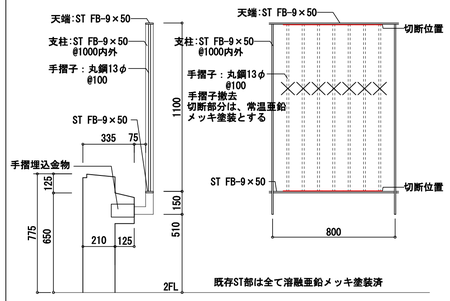
<扉手掛り部分詳細図 1:2>



<姿図 1:20>
<断面図（シンク外） 1:20>
<断面図（シンク） 1:20>

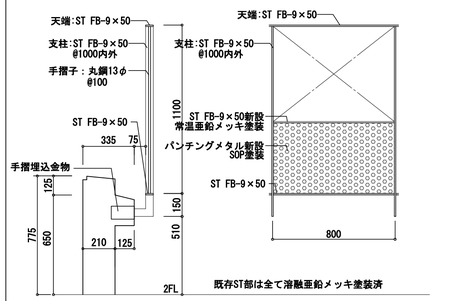
2階外部手摺撤去

A1 1:20
A3 1:40

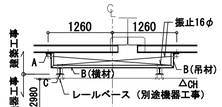


2階外部手摺撤去部のパネル新設

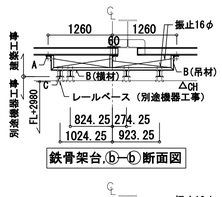
A1 1:20
A3 1:40



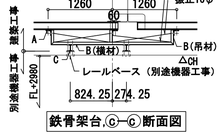
※新設と記載のないものは、既存の仕様を示す



鉄骨架台,ⓐ—ⓐ断面図

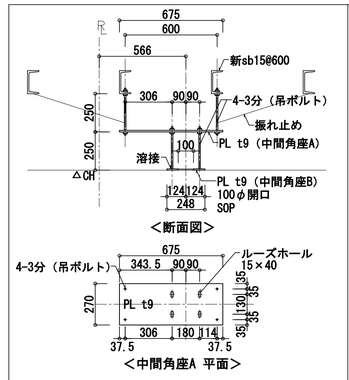


鉄骨架台,ⓑ—ⓑ断面図



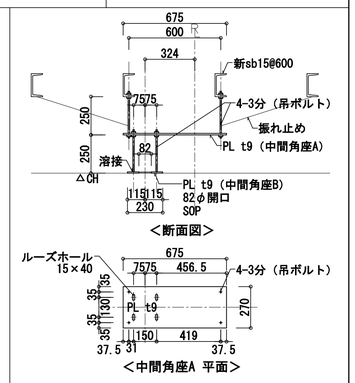
鉄骨架台,ⓒ—ⓒ断面図

※アンギオ装置のメーカーと架台及び架台位置、施工を現場にて最終調整すること



<断面図>
<中間角座A 平面>
<中間角座B 平面>

ケーブル立上りサポート
ラテラルアーク用 詳細 S=1:20

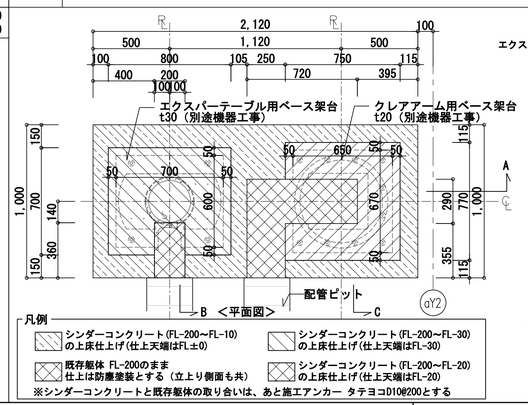


<断面図>
<中間角座A 平面>
<中間角座B 平面>

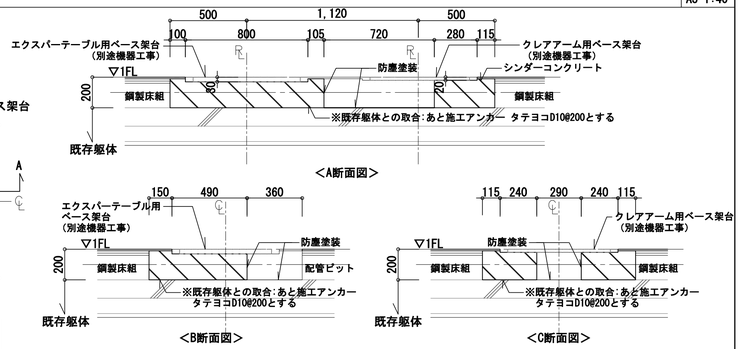
ケーブル立上りサポート
モニター用 詳細 S=1:20

アンギオ室 床シンダーコンクリート詳細図

A1 1:20
A3 1:40



<平面図>



<A断面図>
<B断面図>
<C断面図>

※それぞれのベース架台設置後、架台周囲50mmをモルタルにて埋め戻し（別途機器側工事）
その範囲の床仕上げ材料を機器側工事に支給すること
※アンギオ装置のメーカーと架台及び架台位置、施工を現場にて最終調整すること

<総括・意匠設計者>
一級建築士 国土交通大臣登録 第293589号
中原 岳夫

兵庫県立淡路医療センター アンギオ室整備工事			
A	建築工事	最終版	2020.9.14
09	部分詳細図（2） A1: 1/20 A3: 1/40	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

工事区分表

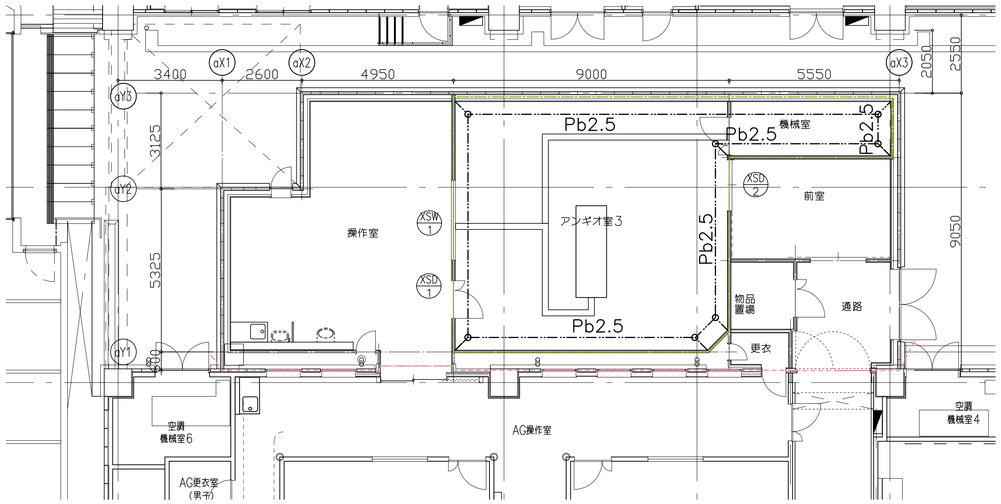
項目	建築		電気	空調
		防護		
・建築工事				
軽量鉄骨下地（開口補強共）	●			
天井下地	●			
内装工事　床・巾木	●			
壁・天井	●			
床ピット（蓋共）	●			
建具仕上塗装	●			
・放射線防護工事				
鉛ボード（テープ、アングル等含む）		●		
放射線防護建具製作、取付		●		
上記建具自動エンジン１次電気配線			●	
鉛ガラス		●		
鉛ボード設備貫通部処理			●	●

1）本防護工事は、専門業者の責任施工とする。

2）X線装置決定後に遮蔽計算をし、鉛厚を最終決定すること。
（医療法施工規則一部改省令（医薬発第188号）に
基づく遮蔽計算を行う。）

3）性能検査
防護工事後に施工確認のため、仮設X線装置を持ち込み、
監督官立会いのもと中間検査を行い、
X線漏洩検査報告書を提出すること。

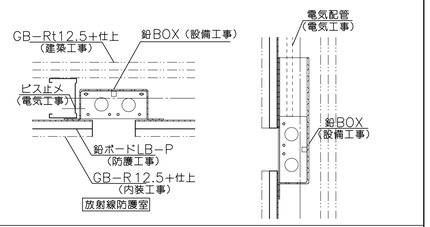
平面図　S=1/200



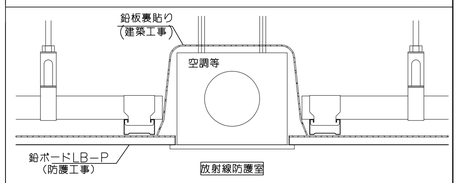
鉛防護範囲を示す

上記内の天井も鉛ボードPb t3.0とする

コンセント・スイッチボックス廻り　S=1/10

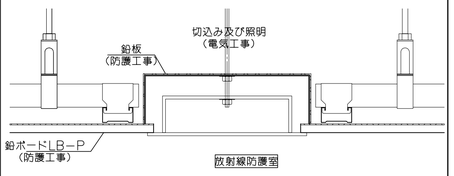


空調機器廻り詳細図　S=1/5



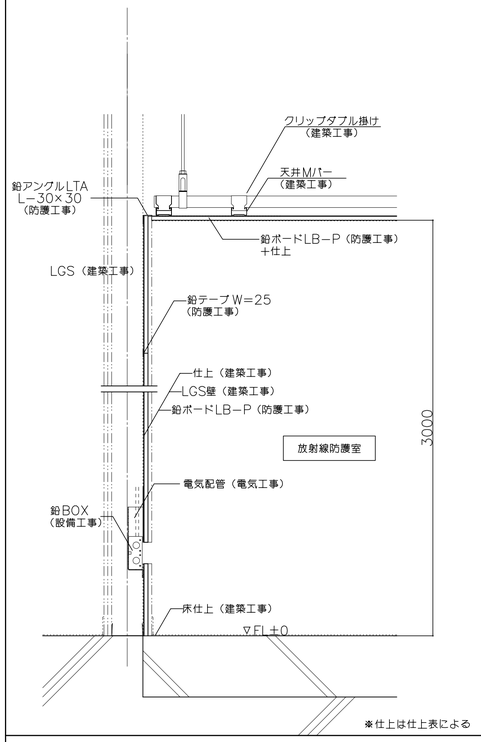
アンギオ吊の天井レール架台も同様に鉛板裏張りとする

照明機器廻り詳細図　S=1/5



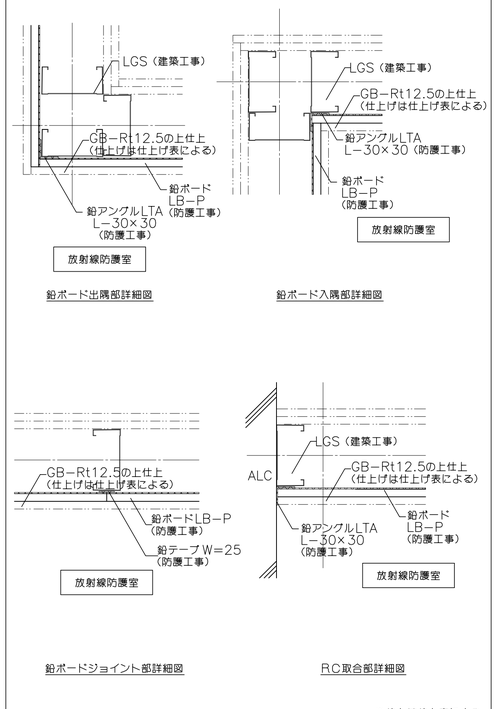
アンギオ吊の天井レール架台も同様に鉛板裏張りとする

放射線防護壁断面詳細図　S=1/20



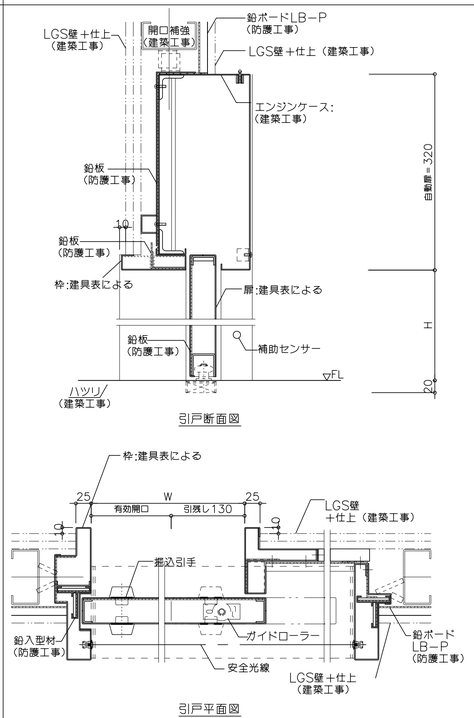
※仕上は仕上表による

放射線防護壁部分詳細図　S=1/10



※仕上は仕上表による

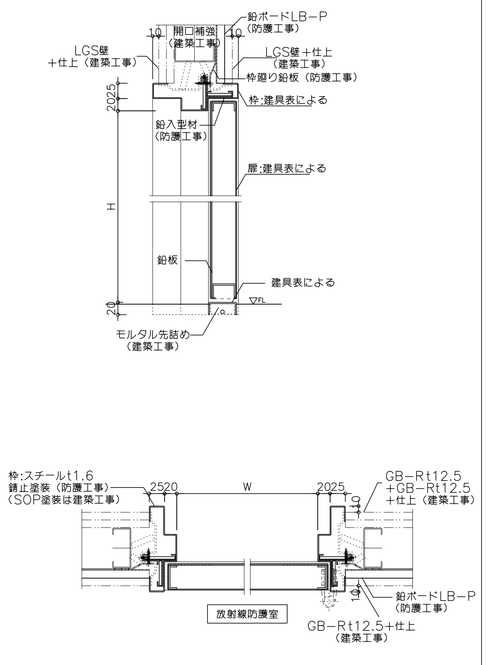
放射線防護建具（引戸）詳細図　S=1/10



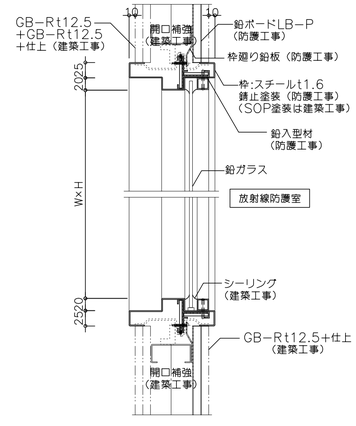
引戸断面図

引戸平面図

放射線防護建具（開き戸）詳細図　S=1/5



放射線防護建具（FIX）詳細図　S=1/5



＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
A	建築工事	最終版	2020.9.14
10	X線シールド詳細図	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

鉄筋コンクリート配筋規準図（１）

一般事項

1.鉄筋コンクリート工事における設計図書の優先順位は、下記とする。
　1）現場説明書・同質疑回答書
　2）特記仕様書
　3）設計図（本規準図、構造設計図）
　4）建築工事標準仕様書（本規準図と標準仕様書「各部配筋」の内容に食い違いがある場合は、本規準図が優先する）
2.設計図内（本規準図と構造設計図）で食い違いがある場合、または,本規準の適用に際して図面解釈上疑義が生じる場合は監督職員の確認を得ること。
3.使用材料は特記仕様書による。

共通事項

鉄筋の表示記号

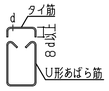
記号	●	×	⌀	●	○	⊙	⊠	◎
異形鉄筋	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32

鉄筋の折曲げ

鉄筋の折曲げ形状・寸法

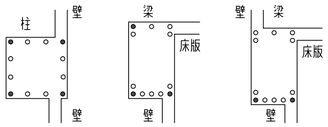
折曲げ角度	図	種類	折曲げ内のり直径（D）
180°	d D 余長 4d以上	SD295A SD295B	D16以下3d以上
135°	d D 余長 6d以上	SD345	D19~D38 4d以上
90°	d D 余長 8d以上	SD390	5d以上

（注）1．dは呼び名に用いた数値とする。
　2．折曲げ角度90°は、スラブ筋、壁筋の末端部またはスラブと同時に打ち込むT形およびL形梁に用いるU形あばら筋と対になるタイ筋のみに用いる（右図）。
　3．片持スラブ上端の先端と壁の自由端に用いる先端の余長は4d以上とする。



異形鉄筋の末端部

次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。
（1）柱の四隅にある主筋（下図の ● ）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
（2）梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（下図の ● ）にある場合（基礎梁を除く）



（3）煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
（4）杭基礎のベース筋
（5）帯筋、あばら筋及び幅止め筋

（a）鉄筋の重ね継手
（1）径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
（2）鉄筋の重ね継手の長さは、下表による。

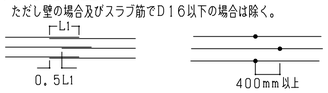
鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	L1（フックなし）	L1h（フックあり）
SD295A SD295B	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24，27	35d	25d
	30，33，36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24，27	40d	30d
	30，33，36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24，27	45d	35d
	30，33，36	40d	30d

（注）1．L1 ,L1h:フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ。
　2．フックありの場合のL1hは、下図に示すようにフック部分ℓを含まない。
　3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
　4．D29以上は、重ね継手を設けてはならない。

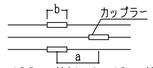
重ね継手の長さ

（3）主筋及び耐力壁の鉄筋の重ね継手を設ける場合にあっては、フックのありなしにかかわらず40d以上とする（軽量コンクリートを使用する場合は50d以上）。
（4）隣り合う継手の位置
　ただし壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合は除く。



ガス圧接・アーク溶接継手のずらし方

重ね継手のずらし方



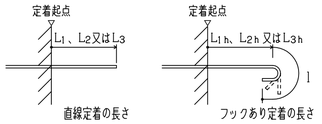
機械式継手のずらし方

（b）鉄筋の定着
（1）鉄筋の定着の長さは、下表及び下図による。
　ただし鉄筋端部の定着は、機械式定着（プレートナット工法，EG定着板同等以上）も監理者の承諾を得て使用可とする。適用条件及び詳細設計は各種工法の評定書の内容に準ずること。

鉄筋の定着の長さ

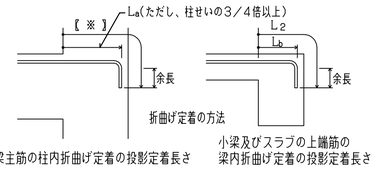
鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	直線定着の長さ L1	L2	L3 小梁	L3 スラブ	フックあり定着の長さ L1h	L2h	L3h 小梁	L3h スラブ
SD295A SD295B	18	45d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	-
	21	40d	35d			30d	25d		
	24，27	35d	30d			25d	20d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD345	18	50d	40d			35d	30d		
	21	45d	35d			30d	25d		
	24，27	40d	35d			30d	25d		
	30，33，36	35d	30d			25d	20d		
SD390	21	50d	40d			35d	30d		
	24，27	45d	40d			35d	30d		
	30，33，36	40d	35d			30d	25d		

（注）1．L1 、L1h：2．以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
　2．L2 、L2h：割裂破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ。
　3．L3 ：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。ただし、基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁は除く。
　　片持小梁・片持スラブの下端筋を直線定着とする場合は25d以上とする。
　4．L3h：小梁の下端筋のフックあり定着の長さ。
　5．フックあり定着の場合は、下図に示すようにフック部分ｌを含まない。
　　また、中間部での折曲げは行わない。
　6．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。



直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ

（2）梁主筋の柱内定着長さは、フックのありなしにかかわらず40d以上とする。
　（軽量コンクリートを使用する場合は50d以上とする。）
　ただし、設計ルート3で設計した場合は直線定着の長さL1または特記による。
（3）梁主筋の柱内定着の方法又は、小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の方法は下図に示すように、全長を直線定着の長さとし、かつ、余長を8d、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを下表に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、柱せいの3/4倍以上）のみ込ませる。



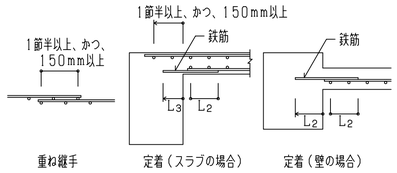
【※】直線定着長さL1と（2）に規定する定着長さ40d以上（軽量コンクリートは50d以上）のうち、大きい値を全長で確保する。
　ただし、設計ルート3で設計した場合は直線定着の長さL1または特記による。

鉄筋の投影定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc（N/mm²）	La	Lb
SD295A SD295B	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24，27	15d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24，27	20d	15d
	30，33，36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24，27	20d	20d
	30，33，36	20d	15d

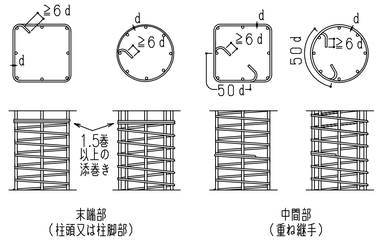
（注）1．La ：梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ。
　　（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
　2．Lb ：小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ。
　　（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
　3．軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。
　4．LaまたはLbはRC計算規準（2010年版）に従って設計図書に特記する。特記がない場合は上表による。

（4）溶接金網の継手及び定着は、下図による。



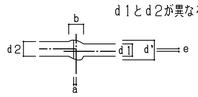
溶接金網の継手及び定着

（5）スパイラル筋の継手及び定着は、下図による。



スパイラル筋の継手及び定着

（6）圧接継手
　ガス圧接をする場合、圧接部の形状はなめらかにふくらませる。
　d1とd2が異なる場合は小さいほうの値をdとする。



ふくらみ	d'	≧1.4d
長さ	b	≧1.1d
芯ずれ	e	≦0.2d
面のずれ	a	≦0.25d

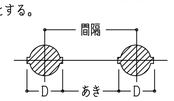
最小かぶり厚さ
（a）鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、下表による。
　ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ（単位：mm）

構造部分の種別				最小かぶり厚さ
土に接しない部分	スラブ，耐力壁以外の壁		仕上げあり	20
			仕上げなし	30
	柱，梁，耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
			仕上げなし	40
	擁壁，耐圧スラブ			40
土に接する部分	柱，梁，スラブ，壁			*40
	基礎，擁壁，耐圧スラブ			*60
煙突等高熱を受ける部分				60

（注）1．*印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は特記による。
　2．「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
　3．スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
　4．杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。
　5．塩害を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

（b）柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
（c）鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
（d）鉄筋相互のあきは下図により、次の値のうち最大のもの以上とする。
　ただし、特殊な鉄筋継手の場合のあきは、特記による。
　（1）粗骨材の最大寸法の1.25倍
　（2）25mm
　（3）隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍
　（4）水平間隔600mm以内に棒型振動機（径45mm）が挿入できる間隔とする。



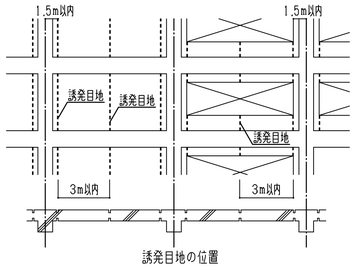
鉄筋相互のあき　　Dは、鉄筋の最大外径

（e）鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは、（d）による。
（f）貫通孔に接する鉄筋のかぶり厚さは、（c）による。
（g）打放し仕上げ部分で増打寸法の記入がない場合は以下による。
　（1）　屋外に面する部分　20mm
　（2）　上記以外の柱・梁・壁10mm
　　（ただし、屋内は見え掛かり部分のみとする。）

スラブ

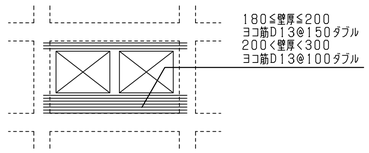
外壁

（1）柱際1.5m以内、および3.0mピッチ以内となるようにひび割れ誘発目地を設ける。目地位置については意匠図による。



誘発目地の位置

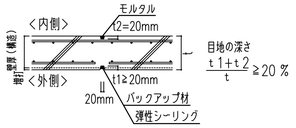
（2）目地を設けない場合は意匠図の特記による。
　ひび割れ誘発目地を設けない腰壁および垂壁は下記の配筋とする。



ひび割れ誘発目地仕様

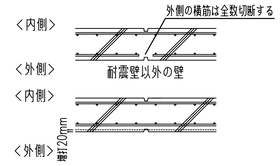
ひび割れ誘発目地の有無および耐震壁の鉄筋の切断の可否については監督職員の承諾を得ること。
ひび割れ誘発目地を設ける場合の目地深さ及び鉄筋切断の仕様は下記同等以上とし、監督職員の承諾を得たものとすること。

（1）目地深さの合計（外側＋内側）は下記による。



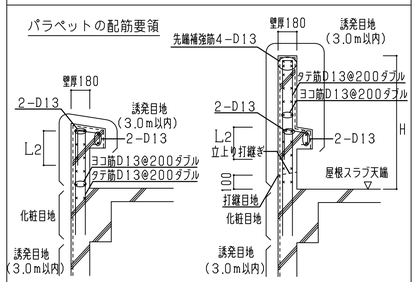
壁厚（増打含む）	t1
180	20
200	25
220	30
250	35

（2）目地位置での横筋は外側のみ全数を切断する。
　耐震壁については、外側は20mm増打して鉄筋は切断しない。



その他

パラペットの配筋要領



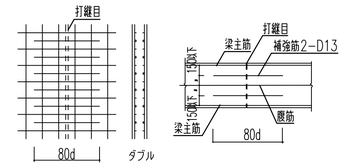
パラペットの配筋と目地　　立上り壁が高い場合などで止むを得ず打継ぐ場合

H≧1500となる場合の配筋は特記による。

（1）立上り部のコンクリートは屋根スラブと同時打ちを原則とする。
　やむ得ず打ち継ぐ場合は打継ぎ面を屋根スラブ天端から100mm以上立ちあげて水平目地を設ける。
（2）ひび割れ誘発目地を3.0m以内に設ける。
（3）誘発目地は外側のみとし、目地の深さは20mm以上とする。
（4）立上り壁の横筋は、目地位置で外側のみ全数を切断する。
※立上り壁のアゴもこれに倣う

打継ぎ部および後打ちコンクリート部の補強

スラブ・壁・梁に打継部を設ける場合はの要領を以下にしめす。



壁またはスラブの打継ぎ部
dは壁筋またはスラブ筋と同一径とし、鉄筋間隔が1/2となるように補強する。

梁の打継部
補強筋は2-D13とし、ピッチ150以下に配筋する。

<総括・意匠設計者>
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
B	建築工事	最終版	2020.9.14
01	鉄筋コンクリート配筋規準図	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

鉄骨規準図　（1）　［溶接規準］

1．一般事項

1．鉄骨工事における設計図書の優先順位は、下記とする。
　1）現場説明書・同質疑回答書
　2）特記仕様書
　3）設計図（本規準図、構造設計図）
　4）建築工事標準仕様書
2．設計図内（本規準図と構造設計図）で食い違いがある場合は、原則として構造設計図を優先するが、監理者の確認を得ること。
3．使用材料は特記仕様書による。

2．共通事項

- 鉄骨製作工場は特記による（ただし、建築基準法第68条の26による認定を受けた工場とする）。
- 工事に先立ち、工場製作要領書・工作図および現場施工計画書を作成し、監理者の承諾を受ける。
- 設計図書に記載のない事項は、「JASS6」「鉄骨工事技術指針」（社団法人日本建築学会）の「最新版」による。
- 溶融亜鉛めっき高力ボルトの施工管理および締付は、溶融亜鉛めっき高力ボルト技術協会の資格認定を受けた技術者および技能者が行うこと。
- ロボット溶接を用いる場合は製作要領書にその旨（部位やオペレータの技量等）を記載し、監理者の承諾を得ること。
- 溶接は溶接管理技術者（WES8103　1級または2級）の管理のもとで行い、溶接材料（ワイヤ・ガスなど）・溶接電流・アーク電圧・溶接速度・ガス流量・パス間温度など適切な条件を選定して施工する。使用鋼材と溶接材料・溶接条件は鉄骨製作工場の認定制度のによる規定による。
- 組立て溶接は開先加工検査を終ったのち、ビードの有効長さ40mm以上（板厚が6mm以下の場合は30mm）とし、原則として開先内には行わない。
- 組立て溶接は被覆アーク溶接あるいはガスシールドアーク溶接で行う。490N／mm級以上の高引張力鋼や25mm以上の組立て溶接を被覆アーク溶接で行う場合には、低水素系溶接棒を使用する。
- 溶接は適当な治具を使用し、原則として下向きで行う。
- 溶接開先面の水分、赤錆、塗料などの溶接に有害なものは溶接前に除去する。
- 溶接棒は常に乾燥した場所に保管し、必要に応じ乾燥器に入れ乾燥させる。
- 溶接による変形や収縮については、なるべくこれを防止するよう適切な対策をたて、出来上り寸法・形状を正確に保つ。
- 隅肉溶接の端部はまわし溶接を行う。ただし、スカラップ始端（フィレット部分）の回し溶接は行わない。
- 工事現場においては母材をいためるような仮設ピースなどの取付け溶接は原則として行わない。

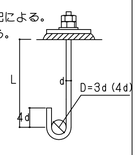
3．ボルト接合規準

- 高力ボルト摩擦面処理・スプライスプレートはショットブラストまたはサンドブラスト処理とし、鉄骨母材はグラインダーがけとする。
- 高力ボルトの符号・ピッチ・へりあき・はしあきは、下表による。ただし、引張材の接合部分においてせん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合は、はしあき距離をボルト径の2.5倍以上とする。

（単位mm）

ボルト	符号	孔径	最小へりあき e1	最小はしあき e2	ピッチP 標準	ピッチP 最小
M16	－	18.0	22	40	60	40
M20	⊕	22.0	26	40	60	50
M22	⊗	24.0	28	40	60	55
M24	⊛	26.0	32	45	70	60

- 接合の板厚の差などにより1.0mmを超える肌すきが生じる場合、薄い方の板にフィラープレート（材質SS400）を用いる。なお、両面とも摩擦面処理を行うこと。
- 建て方用アンカーボルトの埋め込み長さは特記による。
- アンカーボルトは、上端2重ナット締めとする。形状は右図による。



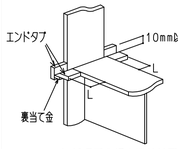
L=40d
（ ）内はd≧20の場合を示す

4．溶接接合規準

溶接接合は本規準による。適用する溶接工法は被覆アーク溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接、サブマージアーク自動溶接、および、エレクトロスラグ溶接とする。

1．完全溶込み溶接は原則として両面溶接とし、原則として裏はつりを行う。ただし、監理者の承諾を得て裏当て金を用いる方法とすることができる。

2．完全溶込み溶接および部分溶込み溶接の両端には、エンドタブを使用し、材質・形状は母材と同質・同厚・同開先のものとする。エンドタブ切断については、標準仕様書に従う。



エンドタブの長さ　単位（mm）

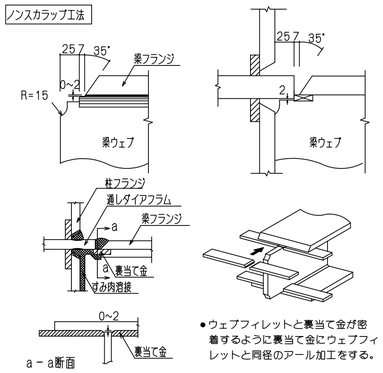
溶接工法	L
被覆アーク溶接	35 以上
半自動溶接	38 以上
自動溶接	70 以上

- エンドタブの組立溶接は裏当て金に溶接し、フランジに直接、組立溶接を行わない。

3．他のエンドタブを使用する場合は、下記資料を提出して、監理者の承諾を得ること。
　1）建築鉄骨溶接技量検定（AW検定）協議会による技術証明書

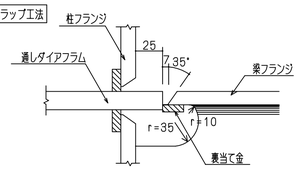
4．仕口部の梁フランジの完全溶け込み溶接は下記のノンスカラップ工法（又は改良スカラップ工法）とし、施工要領書に明記し監理者の承諾を得ること。

ノンスカラップ工法

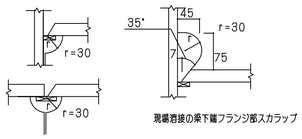


- ウェブフィレットと裏当て金が密着するように裏当て金にウェブフィレットと同径のアール加工をする。

改良スカラップ工法

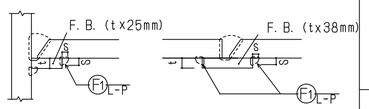


5．梁フランジの現場溶接は下記の要領による。



現場溶接の梁下端フランジ部スカラップ

6．裏当て金の溶接及び板厚は下記の要領による。



- 片面溶接に用いる裏当て金の溶接は断続隅肉溶接とする。また、フランジ両端およびウェブフィレット始端から5～10mmは溶接を避ける。

裏当て金の板厚　単位（mm）

溶接工法	t
手溶接	6 以上
半自動溶接	9 以上
自動溶接	12 以上

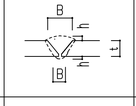
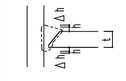
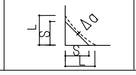
すみ肉溶接のサイズ　単位（mm）

裏あて金の寸法	S
t≦9	5
t>9	9

7．余盛

- 突合せ継手、T継手、隅肉溶接の余盛の高さは下表による。

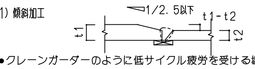
（単位　mm）

溶接継手	形　状	余盛りの限度
突合せ継手		B<15　0≦h≦3 15≦B<25　0≦h≦4 25≦B　0<h≦(4/25)B
T継手		t≦40（h=t/4）　0≦Δh≦7mm t>40（h=10）　0≦Δh≦t/4−3
隅肉溶接		0≦Δa≦0.4S かつΔa≦4

- 部分溶け込み溶接の余盛は完全溶け込み溶接の場合に準ずる。

8．板厚の異なる突合せ溶接

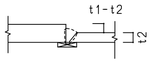
(1) 傾斜加工



- クレーンガーダーのように低サイクル疲労を受ける場合は厚い方の板を1／2.5以下の傾斜に加工して開先部分で薄い方の板と同一の高さにする。

(2) T継手に準じた余盛

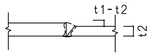
t1−t2>t1/4かつ10mm以下



- T継手に準じた高さの余盛を設ける。

(3) なめらかに溶接

t1−t2<t1/4かつ10mm以下



- 溶接表面が薄い方から厚い方になめらかに移行するように溶接する。

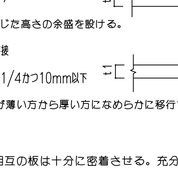
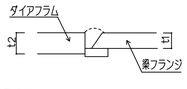
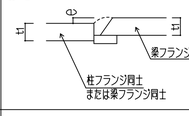
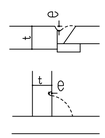
9.隅肉溶接

- 溶接する相互の板は十分に密着させる。充分な密着が充分んに確保できない場合には隅肉溶接のサイズをすき間の大きさだけます。
- 隅肉溶接の端部は、滑らかに回し溶接を行う。

10.エレクトロスラグ溶接

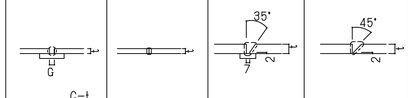
- エレクトロスラグ溶接を行う場合は施工実績や溶接施工試験を実施し、事前に監理者の承諾を受けること。

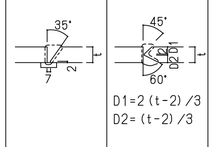
外観検査における重要管理項目（建告第1464号による。）

名　称	図	受入れ検査合否判定基準
(1) 仕口のずれ（ダイアフラムとフランジのずれ）e		t1≧t2　e≦t1/5　かつe≦4mm t1<t2　e≦t1/4　かつe≦5mm
(2) 突合せ継手の食違い e	①通しダイアフラムと梁フランジとの溶接  ②①以外の溶接 	①通しダイアフラムと梁フランジとの溶接 梁フランジ（t1）は通しダイアフラムを構成する鋼板の厚み（t2）の内部で溶接されていること。（注1） ②①以外の溶接 t1≦15mm　e≦1.5mm t1>15mm　e≦t1/10　かつe≦3mm
(3) アンダーカット e		完全溶込み溶接　e≦0.3mm 前面隅肉溶接　e≦0.3mm 側面隅肉溶接　e≦0.5mm ただし、上記の数値を超え0.7mm以下の場合、溶接長30cmあたり総長さが30mm以下かつ1箇所の長さが3mm以下は許容できる。

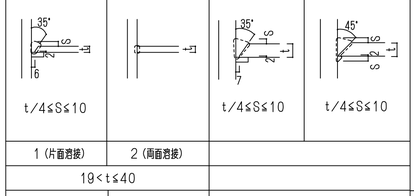
溶接記号

完全溶込み溶接・突合せ継手　（HB）　（単位　mm）

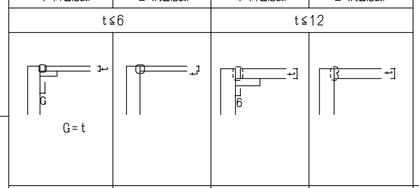


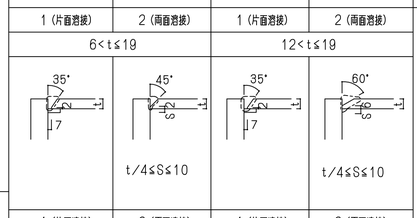


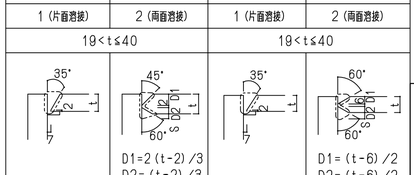
完全溶込み溶接・T形継手　（HT）　（単位　mm）



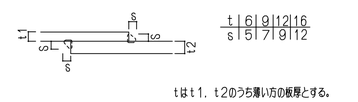
完全溶込み溶接・かど継手　（L）　（単位　mm）



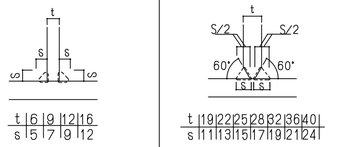




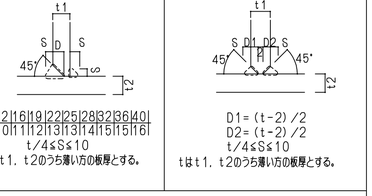
隅肉溶接　（F）　（単位　mm）

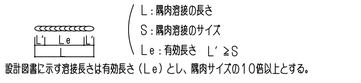


tはt1．t2のうち薄い方の板厚とする。



部分溶込み溶接　（P）　（単位　mm）

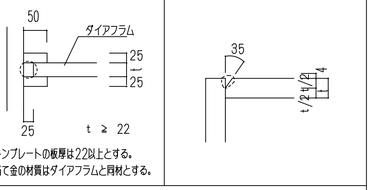




L：隅肉溶接の長さ
S：隅肉溶接のサイズ
Le：有効長さ　L'≧S

設計図書に示す溶接長さは有効長さ（Le）とし、隅肉サイズの10倍以上とする。
隅肉溶接の端部は滑らかに回し溶接をおこなう。

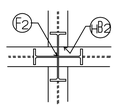
組立箱形断面溶接



スキンプレートの板厚は22以上とする。
裏当て金の材質はダイアフラムと同材とする。

- Hは被覆アーク溶接・ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフシールドアーク半自動溶接を示す。
- Aはサブマージアーク自動溶接を示す。
- 原則として、被覆アーク溶接、ガスシールドアーク半自動溶接およびセルフシールドアーク半自動溶接とする。片面溶接においては、原則として開先をとらない側にも補強隅肉溶接を行う。（Sは補強隅肉溶接のサイズ）

記載方法の例



HB2
溶接面（両面溶接）
溶接継手（突合せ継手）
溶接方法（被覆アーク溶接または半自動溶接）

＜総括・意匠設計者＞
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫

5．鉄骨建て方時の安全性等の確保

鉄骨建て方時を含め、工事中における現場の危害防止は、労働安全衛生法上、建設会社の統括安全衛生責任者および元方安全衛生管理者が、統括管理することとなっているが、その主旨・意図を充分に理解したうえで、各工事関係者へ周知徹底すること。

以下に示す「主な構造形式における留意事項」について、施工計画（仮設計画・施工工程・補強検討など）に反映すること。

○ 吊り構造：吊り設備架台・吊り中間床など
- 吊り元の高力ボルト本締め前に、仮設資材・建材などを仮置きする必要のある場合は、安全性を十分に検討した仮設計画によること。
- 吊り元の仮ボルトを本締め用の高力ボルトに入れ替える際には、下部に支保工を設けるか、上部に仮設の吊り材を設置するなどし安全確保（吊り床の落下防止）を充分行うこと。

○ 下階柱抜け架構：下階が大空間・大スパン用途室など
- 鉄骨建て方時など施工中に作用する軸力に対して、架設した支保工の耐力が充分あること。
- 設計図書で記載された支保工の位置における設置レベル（支保工撤去後のたわみ量のキャンセル分）について、構造設計者に確認すること。
- 支保工の撤去時期（n階床コンクリートの四週強度発現時など）が、設計図書に明記されていない場合は、構造設計者に確認すること。

○ 大スパン架構・片持ち梁構造：大屋根・大庇など
- 鉄骨建て方時など施工中に作用する軸力に対して、架設した支保工の耐力が充分あること。
- ロングスパン梁のむくり（キャンバー）や、鉄骨製作ゲージポイント（たわみ量を考慮した上方へ修正した狙い点）が設計図書に明記されていない場合は、構造設計者に確認すること。
- 柱梁仕口部の現場溶接施工前や、大梁継手部の高力ボルト本締め前に、仮設資材・建材などを仮置きする必要のある場合は、安全性を十分に検討した仮設計画によること。

6．東京都およびそれに類する行政庁による指導

一般事項

1．本指導の適用の可否は下表による。

建設地	○ 東京都内	適用
	○	
	○	適用範囲外

2．溶接部の試験における検査機関は、「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第12条3項の規定に基づき都知事登録された検査機関とする。

入熱・パス間温度管理（告示第1464号の適切な運用を図るための方策）

完全溶け込み部の工場・現場溶接における入熱・パス間温度管理は、認定工場制度による規定に基づき実施する。
入熱量の管理は、「あらかじめ横層順序を定めそのとおりに実施されている力を確認する」方法とし、製作要領書に明記する。
パス間温度管理は、「あらかじめパス間温度管理上限値を超えないパス数とそれを遵守する溶接手順を設定し、そのとおりに実施されているかを温度チョークを用いて確認する」方法とし、製作要領書に明記する。ただし、1．に示す検査対象条件に該当する場合、2.に示す要領に準じ、溶着金属の「内質（機械的性質）」に関する検査を実施する。

1．検査対象条件

○ 部材の塑性化を許容するもの	○ 高さ45mを超える鉄骨造で板厚25mm以上のもの	溶着金属の「内質（機械的性質）」に関する検査を実施
	○ 高さ45m以下の鉄骨造で板厚40mmを超えるもの	
	○ 上記以外	適用範囲外
○ 部材の塑性化を許容しないもの		

2．溶着金属の「内質（機械的性質）」に関する検査
告示第1464号の適切な運用を図るための溶着金属の「内質（機械的性質）」に関する検査は下記の要領で行う。

A．検査項目

溶接箇所	管理項目	抜取率
○ 現場溶接部	○ 示温塗料によるパス間温度変色管理※1	○　%　○UT、外観検査に同じ
	○ 硬さ試験※2	
	○ スンプ法、分光分析、破壊試験	※1、※2とも不合格の場合の精密試験
○ 工場溶接部	○ 示温塗料によるパス間温度変色管理※2	○　%　○UT、外観検査に同じ
	○ 硬さ試験※2	
	○ スンプ法、分光分析、破壊試験	※1、※2とも不合格の場合の精密試験

- 測定・検査要領および合否判定は「東京都防災・建築まちづくりセンター「建築工事施工計画等の報告と建築材料試験の実務手引」による。
- 示温塗料は不可逆性のものとする。
- ビッカーズ硬さ、超音波硬さ、反発式硬さのいずれかを測定し、AW検定協議会、日本鋼構造協会（JSSC）、溶接学会の判定式に準じ、合否判定を行う。

B．検査対象部位・箇所

溶接箇所	溶接箇所
○ 現場溶接部	○ 大梁下フランジ　○ ブレース端部　○
○ 工場溶接部	○ 大梁下フランジ　○ ブレース端部　○

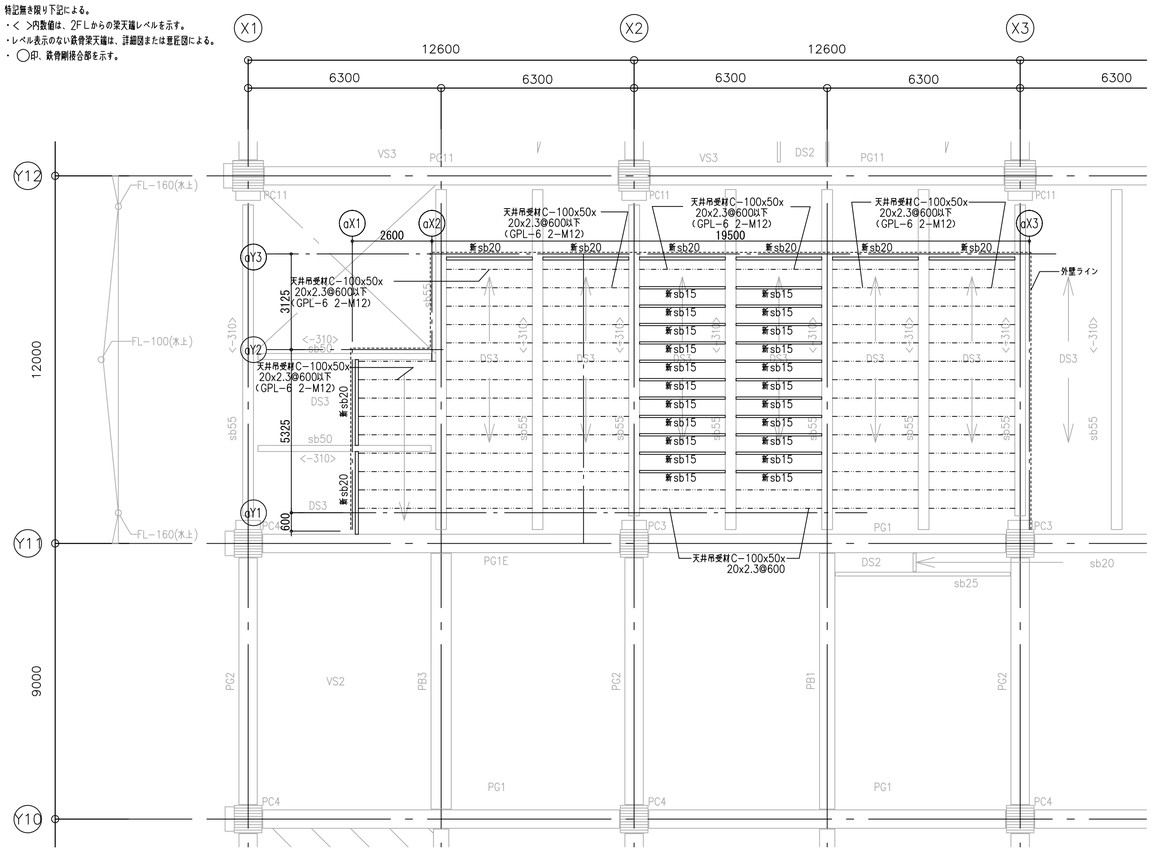
C．受入れ検査・第三者検査機関
「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱要綱」第12条第3項規定に基づき、都知事登録された検査機関とする。

兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事			
B	建築工事	最終版	2020.9.14
02	鉄骨規準図	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所	最終契約版	****.**.**

改修2階床梁伏図

A1 1/100
A3 1/200

特記無き限り下記による。
・< >内数値は、2FLからの架天端レベルを示す。
・レベル表示のない鉄骨架天端は、詳細図または要所図による。
・ ◯印、鉄骨剛接合部を示す。



鉄骨部材リスト

共通事項（特記なき限り）

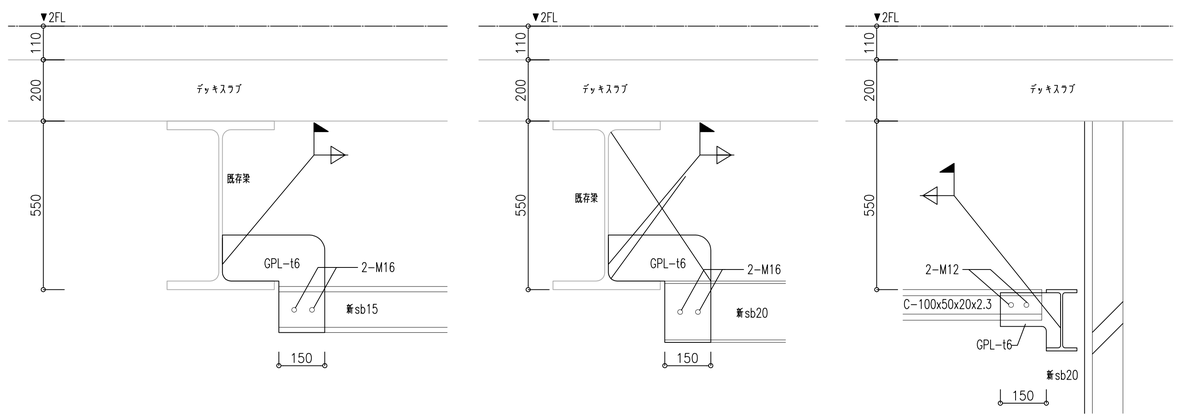
- 鋼材質　SS400　とする。
- ボルト　特記なき限り　高力ボルト（HTB）S10T.
- GPLは　母材と同材質とする。
- "新"のつかない符号は既存構造躯体を示す。
- 新設する鉄骨は全て錆止め塗装とする。
- 新設する鉄骨には耐火被覆不要とする。

鉄骨部材リスト

符号	部材メンバー	接合ボルト	ガセットプレート	2-SPL	備考
新sb20	H-200x100x5.5x8	2-M16	PL-t6		ALC受材
新sb15	⊏-150x75x6.5x10	2-M16	PL-t6		アンギオ吊受材@600以下
下記、既存鉄骨梁リスト					
sb50	H-500x200x10x16	4-M20	PL-9		
sb55	BH-550x350x12x28	5-M22	PL-12	PL-9	二面せん断　SM490A

部分詳細図

A1 1/10
A3 1/20



兵庫県立淡路医療センター　アンギオ室整備工事				
B	建築工事		最終版	2020.9.14
03	2階梁伏図・リスト・詳細図	A1:1/100 A3:1/200	見積版	****.**.**
	安井建築設計事務所		最終契約図	****.**.**

<総括・意匠設計者>
一級建築士　国土交通大臣登録　第293589号
中原　岳夫